
FAIRY TAILー転生したうちー

莓リズム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F A I R Y T A I L ー 転生したうちー

【Nコード】

N 6 4 6 0 V

【作者名】

莓リズム

【あらすじ】

神のせいで死んだうちは、転生することに…

死にました(前書き)

どもッ!!!

よろしくお願いしますm (m

それでわ、どーぞ(*^^) v

死にました

「……おい」

「…おい！」

「起きろバカッ！！！」

ドスッ！！！！

「イタッ！」

お腹けられた…

「何すんのよッ！？！？」

目を疑った。

背景は何もない真っ白でうちの目の前には、ショートの子がいた。

「やっと気がついたか。」

「あんた誰？そしてここどこ？」

「私？神みたいな存在。ここ私の家。あんた私のせいで死んだ。」

「……あっ！」

「思い出したようだな。」

うちたしか、雨の日歩道橋わたってたらすべって落ちて死んだ。

「でも、なんであんたのせいなの？うちの不注意じゃ……」

「雨降らせすぎたから」

「やさしーね。」

「でこれからあんたは、フェアリーテイルに転生すんの」

「行先もう決まってるの！？」

「うん。今から質問するから答えてね。」

「OK」

「性別は男？女？どっちにする？」

「女！……！」

「

「髪の長さと色も」

「長さは背中では色は憧れてた琥珀色」

「OK」

ポン！！！

「かんりよー」

「おお！」

服は持ってたやつに着替えてて、髪はリクエスト通りのストレート
！！！！！！

「ありがとー！」

チョー テンション上がるッ！！！！

「はい」

かわいいショルダーバックに小さいビンが何個か入ってる。

「そのビンの中に着替え、お金、布団などが入ってる。小さくラベルに、

中に入ってる物の名前書いてるから使って」

「やさしすぎ！！！！！！！！」

「最後に魔法の事ね。あんたに、不死、光の魔法をさずける。」

死にました（後書き）

根性があるひとは、次も見えてネ（● ^ O ^ ●）

神マジ スゲーー!! (前書き)

学生です。

夏休みの宿題やべー!!!!!!!!!!!!!!

(T | T)

神マジ スゲー！！！！

「うそうそうそー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！」

チヨ
| | | |
! ! !
落ちる
| | | |
! ! ! !

てかうち小さくなってる！！！！

不死とか言ってたけど、本当か分かんないしッ！……！！でも、服とか髪とかリクエスト通りだし……

「ツてもう地面だあああああ……！！！！！！！！！！」

えーい！！！！

流れを身に任せて神を信じよう！！！！！！

でも……

怖い！！！！！！

「キャー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
！
！
！
！
！
！
！」

ド
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ー
ン
!!
!!
!!
!!
!!
!!
!!
!!

ン!!!!!!!!!!!!

ん……………

えッ……………

い…生きてる???!!

起き上がる。

周りのコンクリートの地面が割れていた。
しかもうち、無傷!?

「神の言ってた事本当だったんだ…」

傷までなかった事にきんだ…

《傷を治癒できたり、薬も作れるよ。あッ! あんた今12歳だよ!》

勝手にそんな事しないでよーーー!!!!

ズキッ！！！！！

「イタッ！！！」

頭がくらくらする……

「ん……」

「あッ！大丈夫？」

「ここは……？」

「フェアリーテイルの医務室よ。私リサーナあなたは？」

名前は…前のヤツでいつか。

「ソフィア…」

あれ…？

「苗字は？」

「…思いだせない」

「えッ？…？」

「記憶喪失になったのでわないか？」

「エルザ！」

「ソフィアといったな？死んでもおかしくない音だったのに無傷はおかしい」

記憶喪失があるのも無理ない」

「じゃあなんで落ちてきたのかは覚えてる？」

「うん。」

「よければ話してくれないか？」

てきとーに話作ろ！

「えっと、食糧求めてたらけっこう高いところにキノコあってとろー
と思ったら

足すべって風にあおられて、落ちたんだと…」

「家は覚えてる？」

「あッ！家ないです。洞窟に穴ほってそこにいましたから。」
これ本当。

「家族は？」

「7歳のころデリオラに…」
これも本当。

「おい！それマジか？」

「キャアアアア！……！」 ↑うち

「グレイ服。」↑リサーナ

「おわッ!!」

「実はあの男…グレイもデリオラに家族を奪われたそうじゃ!」

「マスター!!!」

「のう…行くあてがないのならここに入れてよい。わしも
かわいこちゃんがはいればうれし…」

「マスター!!」

「じ冗談じゃ! エルザ」

「でわそうさせて頂きます。」

「体の方は大丈夫か?」↑エルザ

「はい。」

「私はエルザだ。よろしくな。」

「よろしくお願いします。」

「敬語はいい。私でよければギルドの事、マグノリアの事を教えよう。」

「ありがとー。エルザ」

「あら、エルザ。ソフィアの事気に入ったのね。」

「なッ!!」

「いっそチーム組んだらどーだ。なんてな!」

「でわそうしよう。」

「「えッ!?!」」

「ソフィア、行くぞ。」

「えッ? ちょ…」

とにかく、ギルドの事、マグノリアの事をエルザに教えてもらった。
チームの事はOKした。

1人だと心細いもあるしねッ!!!

そのあと、エルザに女子寮に入る事を進められたのでOKした。
家賃10万Jだったので、ビンの中のラベルを見ると、20億ぐらい入ってた。

仕事もそんなにいなくてもいい感じだったので、寮に住む事にした。

ちなみに、エルザの横の部屋。

穴あけて部屋つないだし：

まッいつか!!↑よくねーよ!!!

イヤーーー

神マジ スゴいわ。

服もほしかったヤツとか気に入ってた服も入ってたし：

ベットやダンスや本、しかも：

お母さんの形見のムチまで!!!!!!

このムチはうちのお母さんが武器の職人で、攻撃力がすごくて伸縮可能って言ってた！！！

魔法使えるケドこれも身につけよう！！！！

《気に入ったか？》

（うん！！ありがとー！！そーいや魔法っーか能力他なにあんの？私！）

《元通りの能力もある！！それだけだから！じゃ！！》

「ソフィア！」

「何？エルザ？挨拶ならギルドの方と寮どっちもして来たよ！！」

「明日仕事に行くぞ！！」

「OK！！！」

「依頼書は明日ギルドへ取りに行く！！しっかり睡眠をとっとけ！」

「了解なりー！！！」

初仕事楽しみだなあ！！

《
続
く
》

神マジ スゲーー!! (後書き)

次回もみてね^m^

初仕事（前書き）

初仕事

「おはようございまーす!!」

「おはよう。ソフィア、エルザ」

「ミラ、マスターはおられるか？」

「ええ、来てたわよ。」

「ソフィア、この仕事にするぞ！」

「どれどれ… 村にひそんでる魔物を退治してください。
報酬 20万J!! ってこれA級じゃん!!」

「お前なら大丈夫だろう。」

「大丈夫って…いきなりA級で討伐系だよ!??」

「マスター、この仕事に行ってきます。」

「話聞けよッ!!!」
「汗」

「お前もえらいもんに目つけられたな。」

「グレイ!!」

「まあ、がんばれや。」

「ソフィア、行くぞ!!」

「…はい。」

「って荷物多ッ!!!!」

「そうか？」

「って依頼主の村はどこ？」

「ほら、見えてきたぞ。」

「疲れたー、丸2日も歩いたらしんどいー」

「弱音をはくな。もう少しだ!」

「あいあいさー」

「ようこそいらっしやいました、マグノリアからわざわざごくろう様でした。」↑村長

「いえ、それより魔物とはどんなヤツですか？」↑ソフィア

「はっきり言います。この仕事をクリアした者はいません。」

「詳しく話してくれないか？」 ↑エルザ

「はい、魔物はワニみたいなもので夜に農作物をあさるのです。」

「夜に出番ってことか。」 ↑ソフィア

「宿に案内しますので、夜まで休んでください。」

「分かりました」

一夜

「行くぞ！ソフィア！」

「OK!!!」

「ガオオオオオツ!!!!!!!!!!!!!!」

「これだな。」

「たしかにワニに、似てる…」

「準備はよいか？」

「バッチリだよ！！！」

「換装！黒羽の鎧！」

「わぁ！かっこいいー！！！」

ってうちもなんかしなきゃ！

光魔法の何使えるか頭に浮かんできた。

なるほど…

よしッ！！

「光魔法！ライトボール！！」

ドドーーーーーん！！！！

ビームの小さいのがけっこうでてきた！！！！

われながら驚く威力…

「やるじゃないか!! 次は私だ!!!!!!」

わくわく!!!!

「おりゃあああ——!!!!!!」

どっから声だしてんの!?

「ぎゃおおおおおおおおお」

バタリッ!!!!

「エルザすごい!!!!」

「村長を呼ぶぞ!!」

「いや…まさか2発で倒すとは…」↑村長

「村長!…!!」

「ありがとうございます。助かりました。」

「いえ、」↑ソフィア

「とにかく、もう夜遅いので宿にお戻りください。
報酬は朝お渡しします。」

「ありがとうございます。」

「宿にて」

「エルザってすごいんだね。」

「お前こそ、たいした魔力だ。」

「明日、ギルドに帰るんだよね？」

「そのつもりだ。」

「うち、エルザとチーム組めてよかった……！」

「もう寝ろ！」

「もしかして、照れてるの？」

「お　おやすみ！」

「おやすみ!!」

「朝」

「これが報酬の20万Jと昨日の魔物のつのを飾った物です。」

「ありがとうございます。」 ↑エルザ

「ではそろそろ…」 ↑ソフィア

「さよーならー」

帰りも歩きです。

「このつの2人で持っても重いな。」

「エルザ！あの酒場で少し休もう！」

「そうしよう。」

ここでララバイの話が出るわけです。

「エルザ！さっきの客うるさつかたね。」

「ああ。」

知らなかった事にしてます。

あそこで騒がれたらよけいややこしいしね…

「エルザが帰ってきたぞー！ー！ー！！！！」

「みんなエルザにびびってるの？」

「そのようだな。」

「へんなのー！。」

「さあ、ついたぞ。」

ドスッ！！！！

「ああー重かった！！！」↑ソフィア

「おかえり！！ソフィア！エルザ！」

「ミラ！マスターはおられるか？」

「定例会よ。」

「そうか…お前たち！！！！また騒ぎをおこしたそうだな！！！」

なんか注意しだしたーーーー！！！！

もう、ほっとこ！！！

「ミラさん」

「なあに？」

「スタンプ押してください。」

「あ！そーいやーまだだったわね！！」

「左手をお願いします。」

「色は？」

「水色で！」

ポントッ！！！！

「はい！」

「ありがとうございます。」

「待てソフィア！」

「何？」

「お前まさかマークいれてなかったのか！」

「うん」

「馬鹿者！！なぜ仕事行く前にいれなかった！！！！」

「エルザにむりやり連れて行かれたから。」

「…そうだったな。すまない」

「ソフィアお前エルザに注意なんかよくできたな…」

「グレイ！普通だよ」

《続く》

最強チーム結成（前書き）

どーも！！！！

でわ、どーぞ！！！！

最強チーム結成

「ナツ！グレイ！ソフィア！本当はマスターのお許しがないといけないんだが、しょうがない。
3人の力をかしてほしい！！！」

「あッ！！例の酒場の件？」

「そうだ。」

「うちはいーよ！！！！！」

「グレイ、ナツお前たちもかしてくれるな？」

「ナツと」

「俺が？」 ↑ナツ

「文句あるか？」

「「ないっすー！！！！！」」

「そうか。出発は明日だ。ソフィア、私は先に寮へもどるぞ。」

ボタンッ!!!!!!

「OK!!!!!!」

「つかお前誰だよ!!!!ソフ…なんとか」

「お前こそだれだよ???うちはソフィア!よろしく」

「俺はナツ!ヨロシクな!!!!!!」

「あの…あたしルーシィ!よろしくね!」

「よろしく!!」

「おいらハッピー!ヨロシク」

…猫　だよね???

しかも羽はえてるし…

「よろしく」

「今まで考えた事なかったけど：ソフィアにナツ、グレイ、これって最強チームかも…」

「おい！ミラ！！ソフィアって強いのか？？」

「だってエルザとA級の仕事行って来たのよ？？強いんじゃない？」

「ソフィア！！俺と勝負しろ！」

「えーっめんどい。」

「ならこっちから行くぞ!!!!」

「ちょっと!! ソフィアまだOKしてない…っってもう遅いか」↑ル
ーシー

「それがナツです。」

「おりゃああああ!!!!」↑ナツ

「……ッ」

ボスッ！！！！

ナツはお腹をおさえながら倒れた。

「じゃうち帰るね。」

「そんな…ナツが1発でやられるなんて…」

「ね！強いでしょ！」

「おいナツ！なんつーザマだ！」

「だ…まれ…たれ目や…ろー」

「グレイもやる？相手なるよ？？」

「けっこうです！！！」

「そう…じゃまた明日！！！」

「ねえ君かわいいね！今からデートしない？？僕ロキ！！よろし…」

バコッ！！！！

「けっこうです」

そのあと、ギルドの中が笑いにつつまれた。

次の日

駅でグレイとナツがケンカしていた。

「テメーら何ケンカしてんの?？」

「あッ!! ソフィア!! おはよー!」

「おはよールーシィ。」

「エルザは?」

「なんか用あるから先行っててっ…」

「ふーん…」

「すまない遅くなった。」

グレイ「さあー今日も行くぞ!!」

ナツ「あいさー」

エルザ「君は？確か昨日フェアリーテイルにもいたが…」

「新人のルーシィです。ミラさんに頼まれて同行する事になりました。」

「そうか…君がルーシィか…3mもあるゴリラを倒したとか…」

「それナツだし…」

「おい！エルザ！何の用か、しらねーが条件がある。」

「なんだ？言ってみろ。」

「帰って来たら俺と勝負しろ。あの時とはちがうんだ。」

「バカッ！俺はエルザのためなら無償で働くぜ。」

「良いだろう…私も自信がないが…」

「それより電車に乗ろう。」

「ああ、そうだな。」

アイゼンバルト（前書き）

実は、うろ覚えです!!!

17巻ぐらいから漫画を買ったのであと全部アニメなんです（＊
　　＾＊）

すみません m（　　） m

アイゼンバルト

「お…ぷ…」

「情けねーなケンカ売った直後にこれかよ…」

「さっきの威勢はどこへやら…」

「毎度の事だけどつらそうねえ。」

上からグレイ、うち、ルーシィです！！！

「しかたないな…私の隣に來い。」 ↑エルザ
「あ” い…」

ボソッ

「どけて事かしら?? ソフィア…」

「らしいね…」

席順

うち

ルーシィ

グレイ

エルザ ナツ

になった。

つーか3人はキツイっす……

「楽にしてやろう。」

「あ”い……」

ボカッ！！！！！！

「これなら少しは楽だろう。」

グレイ↓見てないフリ
ルーシー↓ドン引き

ボソッ

「やっぱりこの人変かも…」↑ルーシィ
「しんどい人に腹殴るなんて…」↑うち

「エルザそろそろ教えてくれてもいいだろう。俺達は何をすればいいんだ？」

「私達の敵は闇ギルドアイゼンバルト。ララバイという魔法で何かをしでかすつもりらしい。」

「この間の仕事を終えて帰る途中の話よ。」

「私達はオニバスの町で魔道士の集まる酒場へ寄った。」

「どうやら、ララバイを見つけたけど封印していらついていたのよ。」

「すると、カゲという者が仲間にエリゴールにララバイを持って帰ると伝えてと言っていた。」

「ララバイ…子守唄って意味ね。」

「うん。封印されてるって事はかなり強力な魔法だと思う。」

「そいつらもアイゼンバルトだったのか…」

「そうだ。うかつにもその時は思いださなかったんだ。」

エリゴールという名をな。」

「闇ギルドアイゼンバルトのエース暗殺系の依頼ばかり遂行しつづけ、ついたあだ名が死神エリゴール。」

「暗殺!?」↑ルーシィ

「本来暗殺依頼は評議会の偉功で禁止されてるけど、アイゼンバルトは金を選んだの。」

「結果、6年前に魔道士ギルド連盟は追放。しかし彼らは命令に従わず今も活動が続けている。」

「あたし帰ろうかなあ…」

「汗出てるよ、ルーシィ。」↑ハッピー

「汗よ!」

「不覚だった…あの時エリゴールに気づいていれば全員血祭りにしたものの!!!」

「こわッ!!!」

「エルザ、抑えて抑えて。」

「なるほど…アイゼンバルトはそのララバイだったので何かしようとしている…どーせ
ろくでもないから食い止めたいと…」

「せーかい！でもギルド1つを丸めるには2人ではキツイってわけ。だからあんた達の力を借りた。」

「アイゼンバルトにのりこむぞ。」

「おもしろそうだな。」

「はでに暴れるか！！」

「あいッ！」

「くるんじゃなかった…。」

「ルーシィ、汁。」

「汗よ！！」

「ところで、エルザさんはどんな魔法を使うんですか?？」

「エルザでいい。」

「エルザの魔法はキレイだよ！血がいっぱい出るんだ！相手の。」

「それ：キレイなの?」

「私はグレイの魔法の方がキレイだと思うぞ。」

「そうか?」

そういつてフェアリーテイルのマークを作った。

「わあ……!!!」

「氷の魔法さ。」

「なんかイメージくずれた。」
「どーゆー意味だ!! ソフィア。」
「ソフィアはどんな魔法なの？」
「光魔法あと治癒や薬作れる。」
「わぁ!!!!!! すごい!!!」
「グレイよりね。」 ↑ハッピー
「悪かったな。」

オニバス駅

「アイゼンバルトはまだこの町にいるのか？」

「それはこれから、調べる。」

「ちょっと！！ナツがいらないわよッ！！！」 ↑ルーシィ

「あらま。」 ↑うち

《続く》

アイゼンバルト（後書き）

アイゼンバルトの字がわかんないー！ー！ー！

誰か教えて m (m

主人公のプロフ&神の事情(前書き)

鉄の森でアイゼンバルトか…

勉強になりました!!!

主人公のプロフ&神の事情

主人公のプロフ

名前
ソフィア

性別
女

年齢
17歳

魔法
光魔法

不死、治癒、薬も作れる。

自分の事を　うち　という。

エルザに続きフェアリーテイル最強女魔道士といわれている。

S級魔道士、聖十魔道士になるのも近いといわれている。

なぜか、エルザに気に入られている。

幼い頃デリオラの被害を受けた1人。

記憶喪失になっている。

はたして記憶が戻る事ができるのか…

神の事情

私は神という存在である。

死んだ人間を、転生させるか、天使の道を歩くのかは私が決める事だ。

この前最近雨を降らせてなかったので降らした。

調子に乗って降らしすぎてたら、1人の少女が死んでしまった。

生き返らそうとしても、遺体がすでに燃やされていたので、転生のチャンスを受けました。

今も天界で見守っている。

主人公のプロフ&神の事情（後書き）

というわけです。

よろしくです（＊＾＾）v

ララバイ（前書き）

ララバイ

「しまった！あいつは電車に弱いというのに……とりあえず私を殴ってくれッ！そうしないと」

「私の気がすまない!!!」

「エルザ！ 落ち着いて！ とにかくナツはまだ電車の中にいるはずよ」

「そういうわけだ！電車を止めてくれ！！」

「そんな、お客さん…困りますよ!!」

「ハッピー!!!」

「あい！」

急停止レバー

「カチツ」

$\vdash^{\circ}$

「でかしたぞ!! ハッピー!」

「あいッ!!」

「私達の荷物をホテルまでたのむ。」

「私が??」

「……」

「:フェアリーテイルって変な人ばかりね:ソフィアもどっかいたし:」

「俺はちがうぞ!!」

「じゃあ服ぬぐな!!!!」

「みんな!!」

「ってソフィア!??」

「お前どっから魔道四輪車を:」

「奪ってきた! いいから乗って!!!!」

「じゃ行くわよ!!!!」

「「「うん!／おう!／まかした!／あい!」
「
「
「

そしてなぜか、屋根にいるグレイ。

絶対コイツ バカだ…

「おい！ ナツだ！！」

「「えッ？？？」」
「」

「うわああああああああああああああああああ」

ゴチンッ！！！！

「ソフィア！止まって！グレイ落ちた！」

「あんのバカッ！！！！」

キキイ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

「ナツ、無事か???」

「あい…」

「いてーだろが!!」

「うっせーな!」

「ひでーじゃねーか!!!!!!!!!!置いていくなんて!!」

「すまない。」

「あい!」

「ごめん?」

「悪かった」
「棒読み」

「ソフィア!棒読みじゃねーか!」

「とにかく、無事でよかった！！！」

ゴンッ！！！！

「かたッ！」

「無事なもんか！」

「？」

「電車で変なヤツにからまれて：アイ：ゼンボルト：とか言ってたな。」

「馬鹿者オ！！！！！」

バシイン！！！！！！

ナツはエルザにビンタされて10mくらいふっとんできた。

「私達が追っているのは鉄の森だ！！！」

「そんな話初めて聞いたぞ！！！！」

「なぜ私の話を聞いていない！」

「エルザが気絶させてたからでしょ。」

「…そうだったな。悪かった。」

「俺、殴られた意味ねーじゃん!!!!」

「それより電車の後を追うわよ!!!」

「ソフィア、運転かわろう! ナツやつらはなにか特徴はなかったか?」

「うーん…笛持ってたなドクロで3つ目の。」

「……あ。」

「? どうしたソフィア。」

「それがララバイじゃない? ドクロでしょ?」

「知ってんのか??」

「多分ね…うちも親からの知識だけど、ララバイは黒魔道士ゼレフが作りだした物で、

笛を聞いた者は命を落としてしまう呪殺がかかっているの。」

「急ぐぞ!!!!!!」

「エルザ！そんなにスピード出して大丈夫なのか！？」

「聞いただけで死ぬんだぞ！」

「SEプラグが暴走してんじゃねーか！いざとなって魔力切れになつたらどーすんだ！」

「お前たちがいるだろ。いざとなれば棒切れでも持って戦うさ。」

クヌギ駅

「汽車をのつたのね。」

「あい。レールの上しか走れないからあんまメリットないよね。」

「でもスピードはある。やつらは何かの理由でいそいでんじゃねーか？」

「軍隊も動いてるし：捕まるのも時間の問題じゃない？」

「だいいいな。」

鉄の森

ビュン！！

「ハエどもにララバイを見られて逃がしただと？ ああ？ カゲヤマ」

「計画がばれたわけじゃないっすよ！感づかれた所でこの計画は誰にも止められないでしょうが！」

グサツ！！

「ハエのは念を入れる必要がある。例の作戦へ行くぞ！！」
「オシバナ駅ですね？」

「ああ」

オシバナ駅

「君！中の様子は？」
「ん？なんだね君は？」

ガンッ！！！！

いきなり頭突きかよ…

「中の様子は？」

「はぁ？」

ガンッ！

「中の様子は？」

「え？」

ガンッ！！

「即答できる人しかいらねーって事か…。」

「エルザがどんなヤツか分かってきたろ？」

「おそろしい…。」

「あい！」

「鉄の森は中だ！行くぞ！」

「おお！」

「駅員さん…ご愁傷様。」

「軍隊が中へ入ってまだ帰ってきてないらしい。おそらく戦いが行われている。」

「ええー…。」

「うわぁ！全滅してるよ！」

「相手がギルド丸ごと1つ…軍隊でわ話にならなかったか…。」

「やはりきたな…ハエども。」

「なにこの数！！！」

「テメーがエリゴールだな。」

「ナツ起きて！仕事よ！！」

「無理だよ。汽車、魔道四輪車、ルーシイだもん。」

「あたしは乗り物かッ！！」

「しょーがないわねー。」

「「ソフィア！」」

「なんかいい方法あるの！？」

「うん。」

ボカッ！

「うぐ…」

「「！！！！！！」」

「何しやがる！！ソフィア！」

「おきねーテメーがわりーいんだよ！！！」

「ソフィアもむちゃくちゃね…。」

「あい！」

「あい！じゃなーい！！」

「ハエがああおめーらのせいで俺はエリゴールさんに…！」

「自己責任だろ。人のせいにすんなよ。」

「ソフィア！！！」

「貴様らの目的はなんだ！！ララバイで何をするつもりだ！」
「わかんねーのか？駅には何がある？」

「飛んだ！！」

「風の魔法だ！！」

「ララバイを放送するつもりか？？」

「ちがうでしょ？」

「なッ！」

「自分の仲間まで巻き込むつもり？まああんたならやりそーだけど…」

「あとはまかせたぞ！闇ギルドの強さを思いしれ！」

「「逃げた！！」」

「ナツ、グレイ2人でヤツを追うんだ。」

にらみあい中…

しょうがねーな…

「ささっと行け！」

「「あいさー!!」」

「逃げた！エリゴールさんを追う気だ!!!!」

「このネンユール様がしとめてくれる!!」

「俺も行く！ヤツだけは許さねー!!!!」

「この数をやっつけたら私達も追うぞ！」

「この数を女子3人で??」

「らくしよーだな。」

「女3人で何してくれんのかな!?!」

「ハエどもめ！羽をむしりにとってやる！」

「かわいすぎるのも困りものね…」

「ルーシィ帰ってきて！」

「下劣な。」

「剣がでてきた！魔法剣！」

「これ以上フェアリーテイルを侮辱してみろ！きさまらの明日は保障できんぞ！」

「ずいぶんなめてくれてんじゃない…そんな事いえねーようにしてやる。」

「手に光が…」

《《続く》》

ララバイ（後書き）

次回戦闘開始！

感想できたらください！

やっちまったー！

SIDEルーシィ

「「うおりゃあ！」」

「ええええええええ！」

2人ともすごい…

エルザは換装？ってのが早くて相手は男で同じ魔法なのにレベルが
ちがいきすぎる…！

しかも一掃してるし…

byハッピーうんちく

ソフィアは光魔法だったので手からありえない数のビームが出てるし…

ナツとグレイを行かせてから5分で倒したの…！！

あ…ありえない…

エルザが妖精女王…ティターニアと呼ばれている事も知った。
ソフィアも妖精姫…フェアリープリンセスって呼ばれているみたい…
入ってすぐ名をつけられているのにエルザもびっくりしてた！

SIDEソフィア

「ちッ！ザコばかりじゃねーかよ…てかうちプリンセスって柄じやないんですけど…」

「ソフィアって二重人格っぽくない？？」
「あい！」

「なんか言った？」

「「いいえ…！何も言っておりません…！！」」

聞こえてるけど…
スルーしよう。

二重人格か…
確かにうち、転生する前はプリンセスっていう言葉が似合ってたよ
うな…

それにこんなキャラじゃなかったし…

「ソフィア、ルーシィ！エリゴールを追ってくれ！」
「分かった。」
「えーあたしがー？」

「たのんだ！」

「はい！行って参りまーす！！！」

イタ！

ルーシィってけっこう力あるな…
ってかうちの腕なんでつかんでんの！？

エルザ魔力を使いすぎたな…

「つてか…どこにエリゴールいんのよ!! なんであたしが探さなきゃいけない分けえ？」

「ルーシイもけっこう人格変わるよね？」

うちはにっこり笑顔で言った。

2人ともびびってる…。

「ルーシイ! さっきの話絶対聞こえてるよ!!」

「そーよね! ハッピー! どーしよー…」

どうもしないけど!

しばらくどーでもいい話をしながら歩いていた。

ってかカゲちゃんどこにいるんだろ…

早くしないとやばいな…

バルゴがいるから大丈夫なんだけど…

「何？この音？」

ドローン……！

「こっちだよ!!」

ああー…カゲちゃんやられちゃったか…

着いたけど…

「なんか大変な時に来たわね…」

「あい!」

「静かにッ!」

「ちくしょおおお!!!!!!」

ナツ暴れてます。

「ナツ! やめな!!」

「なんだよ! ソフィアいい方法あんのかよッ!!」

バルゴの事言うか…

「うち先行くね。」

「」「はあ???」「」

「みんなは、穴掘って来たら?」

「ああー!」

思い出したハッピー。

「じゃ。」

「えっ? ? ?」

「ソフィア! 危ないわよ? ?」

うちは魔風劇の前で光魔法のブロックを作りそれを自分の身の回りにつけ歩いた。

ちょー余裕でした。

普通に外の出られたし…

うちはボルトに勝てんじゃね? ? ?
みたいな感じで走った。

10秒で線路について30秒でエリゴールに追いついた。

世界新記録出たー！ー！！！！

ボルト！ごめーん。

エリゴールに顔面に蹴り入れました。

あれ???

バタリ!!!

嘘？
？

もしかして…

倒しちゃた感じ???

一発だよー??

見に行くと、顔が変形していて心臓の音がしなかった。

[illegible][illegible]

や | | | | | | | | | | | | | | | |

こりゃやばい！！！！！

シャレなんないからうちは一応

治療でエリゴールを気絶状態に治しといた。

ついでにそのへんにあったロープでしばってと…

よし！完璧！

あとはナツ達を待つのみ…

「
「
「
「
「
ソ
フ
イ
ア
! ! ! ! !
」
」
」
」

おッ！来た来た！！

「み　みんな　お…そいよ…はははははははは。」

笑えない！どーしよ…

「なにかあったのか？？」

「いや…別に…」

「おめー絶対嘘ついてんだろ！」

ギクッ！！！！

「ナツ…するどいね。」

「いやおいらでも分かったよ。」
「嘘つくのへただな…」

一応みなさんに話しました。

「」「」「……」「」「」

黙ったあああ!!!

やめてー!こーいう空気がやなんだよねー!!!

エルザが口を開いた。

「マスターだけでは言っておけ。」

「はい。」

するといきなりカゲちゃんが

「ララバイはもらった！」

魔道四輪車奪って逃げたー！！

なんかムカツと来た…

「待てコラー！ー！！！」

走った！後ろからなんか聞こえたけど走った！

カゲちゃんとおつかまえて終了！！

そのあとみんなと話し合いとりあえず定例会の行われているクローバーに行った。

着いてしばらくすると、マスターを見つけた。

そのあと、エルザがマスターに報告をした。

するとマスターがうちに

「ソフィア、ギルドに帰ったらわしの所に来い。」

「…はい。」

ああああああああああ

やっちまったー！ー！ー！

《続く》

おひとよし(前書き)

こんにちわ(●^o^●)

なんかいろいろ間違っててすみません m (m

でわどーぞ。

おひとよし

あああああああああああああ ああああああああああああ
あああ

どーしよーーー

帰ったら何されんの！？

もしかして……破門????!!!!

それとも評議員から来た始末書書くとか????

頭かかえてたらナツに

「どんまい！」

つて言われた!!!

言われてもね…

そしてマスターが
ララバイを吹いても何も変わらない
と
しゃべりだした

やばい…

実際聞くと泣ける…

そしてカゲちゃんとエリゴールが

「「参りました。」」

と言い土下座した。

しばっていたので手はそえられなかった。

「マスター！今の言葉目がしらが熱くなりました。」
「かたあ！」

「じっちゃん！スゲーな！」
「そう思うならペしペしせんでくれ。」

「ソフィア、縄をほどいてやれ。」

「りょーかいでーす！」

ほどいてやった。

「言っとくけど変な行動起こしたらまたしばるよ。」

うちはそう言い治癒をかけた。

「なんであんた達はそこまでお人よしなんだ…」

「なんでだろね…まあうちカゲちゃん蹴ったしね！そのおわび的な感じ。」

「…」

「はい！終わったよ！もう包帯はずしていいよ。」

ルーシイがはずした。

「ほんとだ…治ってる！」

うちは座った。

エリゴールも治してカゲちゃんも治したからさすがに魔力を消耗したか…

「魔力を使いすぎだ。」

「エルザ！」

「エルザもでしょ！？」

「やはり知っていたか…」

「あんなに魔道四輪車を飛ばして消耗しないわけないじゃん！」
「お前もあんなに走って疲れないのはおかしいだろう。」

そして2人で笑った。

「あ！」

「どうした？ハッピー？」

「ナツ！エルザとソフィア笑ってたよ！」

「まじか！？」

「うん！」

「エルザ笑うのめずらしいのに…」

「おほん！」

エルザはせきばらいして少し照れた。

「くすッ！」

「何がおかしい！ソフィア！」

「いや別にー？」

すると突然

「どいつもこいつも根性がない魔道士どもめ…」

ララバイがしゃべりだす。

「な…なんだ!？」

ナツが驚いてる。

「こうなれば自分でやってくれるわ！」

そうしてララバイは黒い闇に包まれた。

「笛がしゃべったわよ！ハッピー！」

「あの煙…形になって行くよ！」

「きさまらの魂を食ってやる…」

「なッ…」

「ああー出ちゃた…」

「「怪物ー！？」」」

《《続く》》

ポコポコにしちゃえ！（前書き）

こんにちわ（●＾○＾●）

夏休みの宿題やっと半分いった！

全国の学生さん！こうならないように
毎日コツコツしなさい！

え…？

もう終わった…？

：

本編はいります（T|T）

ボコボコにしちゃえ!

「な…何だ!? こんなのは知らないぞ!」

カゲちゃん落ち着こうぜ!

「あらら…大変。」

青い天馬のマスター…ボブ

「ソフィア!あの怪物の事知っているのか?」

「来る前言ったでしょ!? ララバイはゼレフ書の悪魔だって!」

「そんな話しらねーぞ!」

「ナツは気絶してたから…」

『腹が減ってたまらん…貴様等の魂を食わせてもらうぞ。』

「なにー!」

「魂ってうめえのか!？」

「知るかッ!?!」

「バカ…」

「どうなってんの…なんで笛から怪物が…」

「あの怪物がララバイそのものなのさ」

クワトロケルベロスのマスター　ゴールドマインが説明してくれた。

「つまり生きた魔法それがゼレフの魔法なの!」

「生きた魔法…」

「ゼレフ!?!?ゼレフってあの太昔の!?!」

「黒魔道士ゼレフ　魔法界の歴史上最も凶悪だった魔道士…何百年も前の負の遺産が
こんなところに姿を現すなんてね…」

『さあて…どいつの魂から頂こうかな…決めたぞ!全員まとめてだ
!?!?!』

「いかん!ララバイじゃ!」

「ひーーーーー」

ルーシィ…びびりすぎ…

「行くぞ！」

「「「おお！」」」

「ルーシィは行かないの？」

「今日はもう使える精霊いないし…」

「ソフィアも魔力ないのに行ったよ。」

「ハッピー…あんたも行かないわけ？？」

「あい！」

「ソフィア！魔力がないのにどうやって戦うんだ！」

「心配ご無用！」

うちはムチを取り出した。

「おりゃあ！」

バ
シ
ー
ン
!
!
!
!
!
!
!
!
!
!
!
!

1

1

「おお！！！！」

ララバイの右手をもいだ。

うーん…

すごい威力&うちの腕力…

「ソフィアばかりいいところ持っていくんじゃねー!」
「」

グレイ、ナツ…

あんたらそんなに目立ちたいわけ???

「あとはまかせた!」

エルザやナツ、 그레이が魔法を使って攻撃する。

ララバイがこっちに向かって攻撃してきた！

「やばッ！！」

「光魔法！立体ブロック！」

で盾をするけど魔力がないから正直キツイ…

「アイスメイク盾！」

그레이が手伝ってくれた！

「サンキュー！」

「おお！」

「あれほどの造形魔法を一瞬で…」

「造形魔法？」

何も知らないルーシィがハッピーに聞く

「魔力に形を与える魔法だよ。」

「そして形を奪う魔法でもある。」

「アイスメイク ランス！！！！」

ズガガガッ！！

「なんて破壊力なの！？」

「今だ！」

「黒羽の鎧！一撃の破壊力を増加させる魔法の鎧だ！」

「火竜のこう炎」

ドオン！！！！！！！！

「見事！」

「ゼレフの悪魔がこうもあっさり…」

「どーじゃー！！すごいじゃろ！！」

「すごい！超カッコイイ！！」

おいおい…みんな笑ってる場合じゃないよお！？

マスターは分かったみたい…

「あああああ！！！！定例会の会場が！」

なってしまったーーーーー(・o・)(前書き)

アニメのオリジナル作品はやろう!と

思ってるヤツとまあいいやって思っているのもあります!

そのへんご了承ください(＜|＞)

というわけで「ナツ村を食う」

は飛ばさせていただきますm(┐┌m

なってしまったー(・o・)

うちは逃げながらもなんとかギルドに着いた。

でマスターがギルドに帰ったらわしの所に来いと…

今はドキドキしながらマスターの所にいます…

ギルドのみんなもみんな普通どおりにしてるふりして盗み聞きしてるし…

あああああ

怖い(T|T)

「それでご用件はなんでしょう???」

敬語を使ってます…

「のうソフィア…」

「はい。」

ああ、ついに来た…

心拍数けっこういってるよ!?

今にも心臓が口から出そうな感じ…

たーのーむー

はやく言っとくれー

ため息なんかつかないでー

さすがのエルザも緊張してるみたい…

ミラさんなんか持ってる食器を落としそう…

みんなも知らない事なのかー

「お前を…」

何!?

破門ですか!?

もったいぶらないで早く言ってー！ー！

ていうかここ追い出されたらどこ行くのうち！

いちおう青い天馬のマスターボブさんからはスカウト来たけど…

「お前をS級魔道士になることを許可する。」

「……え！？」

[illegible]

「あの……なんで……」

「エリゴールを1発で倒したり魔力がないのにムチであれだけの威力……試験なんかしても結果は見えておる。」

「でどうするのじゃ！引き受けるか受けないか！」

「そのお話引き受けます！：！：！」

「以上じゃ。」

「おめでとう！ソフィア！」

「ミラさん、ありがとうございます！」

エルザはホツとしてた。

「ソフィア！すごいねマスターがあんな事いうの初めてだよ！？」

「うん……うちもびつくりした……」

「くっそー！　！！！！！！！！　えーいソフィア
エルザの勝負の前に
お前と勝負だ！！！」

「ナツ……こりないね……」

「いいからやれー！ ほれ外行くぞ！ じっちゃん！ 審判たのむ！」

「はいよー」

「勝負は見えてるのにね…」

「あい！」

「バカだなあいつ…」

「それではよい…はじめ！」

「おりゃあ！」

ナツが殴ってきた！

よける

うちは腹蹴り！

「うぼっ！」

倒れた

「そこまで！」

「勝負になってねーよ！」

「ほんとに…」

パン！

「全員その場を動くな！」

評議員の…カエル？だった

うちはナツを治癒しようと隣にいた。

「先日の鉄の森テロ事件におき器物損害罪その他11件の容疑でソフィアを逮捕する！」

うちはナツを蹴って氣絶させた。

「エルザ！ あとはたのんだ！」

「了解した！」

エルザにまかせておけば大丈夫！！！！！！！！

一応手錠はさせられたけど評議会にいたらはずされた

??:?

どうして?:?:?

形だけの逮捕ならつけとかなきゃいけないのに…?:?:?

わけがわかんないまま部屋に入る

『ソフィア：あなたを逮捕という形でとらえたことをここで謝る。』

『だがあまり物を壊さないように』

「はい。」

『ソフィア：あなたに聖十大魔道師の称号を授ける。』

「ありがとうございます」

そしてバッチをもらい、ギルドに帰った。

みんな形だけの儀式と思っていたらしい
まあうちもそう思ってた

でみんなにバッチを見せると

「
「
「
「
「…
「
「
「
「
「
「

はい黙った！

こういう空気やダツてこの前言ったよね！？

やーめーてーーーー

ナツがなんで殴ったと聞いてきた：

めんどいからごめんと行ってすませた。

なってしまったーーーーー(・o・)(後書き)

なんか変な話ですいませんでした(T|T)

次回から

デリオラ&呪いの島編です！

ミストガン
(前書き)

はいっというわけで

デリオラ&呪いの島 ガルナ島編レッツゴー……!!!!!!

の前にミストガンの事書かなきゃ……

それで終わるかもお (T|T)

ミストガン

それからすぐの事だった。

騒いでたらみんなして寝てしまった…
エルザまで！

「えッ！？ちょっと！みんなしてどーしたの！？」

まだ昼だよ！

もしかして昼寝！？

すると顔を隠してる男性が入ってきた。

「マスター？あの人は？」

「ソフィアは眠くないんじゃない？」

「はい：治癒の薬で欠点をなくすの飲んだので…」

「アイツはミストガン、フェアリーテイルの魔道士じゃ。」

「へえー……でも何かを隠してる。」

「ッ！きさまどこで！？」

「光魔法……うちの魔法の一種でおみとうしっていう能力があるの。大丈夫みんなには
いわないし、これ以上は調べないでおく。」

「光魔法か……たのむぞ……」

「うん。」

そういつて仕事を取った。

「言ってくる。」

「これ！眠りの魔法をとかんかッ！」

「5…4…3…2…1」

フッ！

消えた！

どーやらそほどの力があるな……

みんなが目を見ました。

みんなはミストガンだと騒ぎだす。

「ミストガン？」

うちの予想だとルーシィ何もしらねーな…

「フェアリーテイル最強候補の1人だよ」

ロキがルーシィに話す。

逃げたし…

ロキってば話すんだったら話すでハッキリしろよ…

「どういうわけか誰にも顔を見られたくないらしく仕事を取る時はいつもこうやって

全員を眠らせちゃうのさ。」

「何それ！怪しすぎ！！！！」

「だからマスター以外誰もミストガンの顔を知らねえんだ。」

「いんや…俺は知ってんぞ。その女もな」

うわーー

めんどい事いいやがって

「ラクサス！」

「いたのか！」

「めずらしいな！」

「もう1人の最強候補だ。」

「！！」

「ラクサスー！！！！！！！！！！俺と勝負しろ！！」

「おめーさっきソフィアとエルザと勝負して負けたばっかじゃねーか！」

そう…さっきエルザにケンカ売って負けてた。

「そうそう…エルザごときにかてねーようじゃ俺にはかてねーよ！」

「それはどういう意味だ…」

「エルザほっとけ！ そんな事言えんのは今のうちだ。」

「おい：お前どーいう意味だつーかさつきミストガンとしゃべって
たな。」

「えッ!？」

「どーでもいいよ！んな事。さっきのヤツはあんたの未来を見ただけだ。」

「なんのだよお!!!!!!!!!!!!!!」

「あんたがナツに負けるんだよ！」

「なッ！ふざけた事いうんじゃねー！！！！！！！！！！」

「なんなら水晶玉でもかりて見るか??？」

「…ちッ！……！！……！！」

「ラクサス！……！！……！！……！！降りて俺と勝負しろ！……！！」
「お前が上がってこい。」

「上等だ！……！！……！！……！！……！！……！！」

ドンッ！……！！

「二階へはまだ上がってならん……!!」

「ははッ！怒られてやんの！」

「ラクサスもやめんか！」

「フェアリーテイル最強の座はわたせねーよ……!! エルザにもミストガンにも
その女にもあの親父にもな……!!」

次の日

エルザとギルドへ行くとみんなが騒いでいた。

「あッ！！ソフィア、エルザ！」

「何かあったのかミラ？？？」

「うん…実はナツがS級クエストに…」

「えええ！？」

「他に連れは！？」

「多分ハッピーとルーシィも…」

「あいつら…ギルドの掟を破って…！！！！！！！」

「それでグレイが止めに行ったんだけど戻ってこないから多分連れて行かれたと思うの！」

「あのバカ！！！！！！！」

ミストガン（後書き）

次回からやっど……！！！！！！

勝手にしやがれ（前書き）

うわーーー

真面目なタイトル（笑）

やっとガルナ島だー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！

ソフィアもデリオラに家族を奪われた1人なんで
早く書きたくて：（＜―＞）

勝手にしやがれ

うち達は走って港町ハルジオンに向かった。

着いたけど誰もガルナ島に向かう船を出してくれない……

なので：

「あそこに海賊船がある。」

「まさか…」

「手荒だが強奪する。」

「あいあいさー！ー！！！！！！！！！！」

ちよーーーたのしそーへmへ

まず灯台まで登ってうちのムチで海賊船を狙ってエルザがうちにつかまって…

→伸縮可能

つつこむ！！！！！

「よし！エルザ行くよ！」

「了解した。」

つーか重ッ！

鎧が…

「えい！」

ドン！

けっこう早い！

手ごたえねーし!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

「勘弁してくださいよお! あそこは呪いの島ですよ…」

「興味がない。」

「うちらは一部のバカ共を連れ戻すだけ! 悪いけど帰りもお願いね。」

「まかしてください! 私達は姉御と姉さんの味方だ! いやです!」

「ありがと? はーいみんなご飯よ!!!!!!!!!!!!!!」

「」「」「はーーーーーい?」「」「」「」

「すまないな、ソフィア。」

「いいのいいの! 船長もとりあえず食べな!」

「ありがとうございます！姉さん！」

「
「
「
「
「
「
「いただきます！」
「
「
「
「
「
「
「

次の日

とりあえず海岸沿いにおろしてもらいここで待ってるという約束をした。

海岸を歩いてたらルーシィがネズミ？につぶされそうになってたの

で助けた。

「エルザ、ソフィア!!!!!!!!!!!!!!」

エルザはにらむ。

「…さん」

さんづけしたあ！

「ルーシィ、なぜうち達がここにいるか分かってる？」

うちはにっこり笑う。

「あの…連れ戻しに…ですよね?…?」

「ルーシィよかった無事だったんだ!」

「ほい!」

うちはハッピーの尻尾をつかんだ。

「ナツはどこだ?」

「ちょっと聞いて!勝手に来たのは謝るけど…今この島は大変なの!氷づけの悪魔を復活させようとしている奴等がいたり村人達はそいつらの魔力で苦しめられたり…とにかくこの島は今大変なの!」

「ルーシィ!!!!!!」

「は…はい!」

「ナツはどこ?と聞いたのよ?…?」

「興味がないな。」

「じゃあせめて仕事を最後まで！」

シャキーン!!!!!!!!!!!!!!

えええええ?..?..?..?..?..?..?

「仕事？ 違うぞルーシィ。きさまらはマスターを裏切ったただですむと思うなよ。」

あ
あ
ー
ー
ー

ルーシイ泣いてんじやん…

「エルザまずグレイを探そう！　じゃあナツも一緒にいるかもしれないし……」

「そうだな……そうしよう。」

「ハッピー！グレイを探しな！へたなマネしたら半殺しだから！」

「あい！」

といいつつエルザはルーシィとハッピーをしばった。

村がなくなってたので人気のあるところを探さした。

すると村の資材置き場を発見した。

村の女の話によるとグレイはまだ目が覚めていないらしいから
目が覚めたらテントに來いと伝えておいてくれと頼んだ。

しばらくすると 그레이 が来た。

「エルザ！ ソフィア！ ルーシィ、ハッピー！！！」

「だいだいの事情はルーシィから聞いた。お前はナツ達を止める側ではなかったのか？ 그레이」

「……………」

「呆れてものも言えんぞ。」

「で話をまとめるとナツが見当たらないの。この場所が分からなくて迷ってるかもしれない。」

「 그레이 ナツを探しに行くぞ。見つけ次第ギルドへ戻る。」

「な…何言ってるんだエルザ、ソフィア…事情を聞いたなら今この島で何が起こってるか知ってるだろ」

「それが何か???」

「私はギルドの掟を破った者を連れ戻しに来た。残るはナツ1人それ以外の事には一切興味がない」

「この島の人達を見たんじゃないのかよ！」

「見たよ。」

「それをほっとけと言うのか!!!??」

「くだらない」

「なッ!!!!!!」

「あんた達は勝手にS級クエストに行った。それがいけない事だと

知りながら。」

「でも…」

「たいした根性ね。S級魔道士でもないくせに。」

「見損なったぞ！ソフィア！」

「何度でも言いな！うちは正論を述べただけ。」

「そうよ！ 그레이！最初はソフィアも弁護してくれるって言ったのよ！？エルザに反対されて怒られてたけど…」

はいしましたよ？

ムダだったけど…

「ソフィアの言うとおりだ。 그레이きさままでギルドの掟を破る気かッ！？」

ただではすまんぞ！！」

「勝手にしやがれ!! これは俺が選んだ道だ! やらなきゃいけない事なんだ

最後までやらしてもらおう! 斬りたきゃ斬れよ。」

「エルザ、うちが言った通りじゃない…」

「エルザ落ち着いて!!!!!!」

「そうだよ! グレイは昔の友達に負けて気がたってるんだ!!!!」

ザシュッ!!!!!!!!!!

「話にならない! まずは仕事を片付けてからだ。」

「でもバツは受けてもらうからね!!!!」

「エルザ、ソフィア…」

勝手にしやがれ(後書き)

よーーし!!--!--!--!!

次で終わるかも…

分かんが

次も見てネ^m^

ダメだしでもいいので

感想ください(<|>)

待つてマース(*^^)
v

なんかだんだん書くのめんどくさくなってきた（――）（笑）（前書き）

こんにちは（●^o^●）

早いものでもう話が終わりそう・・・

なんかだんだん書くのめんどくさくなってきた（――）（笑）

それからうち達は月の遺跡に向かった。

「リオンは昔からウルを超える事だけを目指にしてきた。だからそのウルがいなくなった今、

ウルの倒せなかったデリオラを倒す事でウルを超えようとしている。

」

「ええええ！？ちょっと待って！！デリオラ倒すって無理だよ！無理

！！！！」

「リオンはデリオラの恐ろしさを知らねーんだ。」

「そっか………死んだ人を超えるにはそれしか……」

「あい」

「いや……アイツは知らないんだ。」

「えッ？」

「確かにウルは俺達の前からいなくなった。だけど……」
「ウルはまだ生きている。」

「ええッ!!?」

「うそッ!!?」

・・・ノーコメントで・・・

まあ真実知ってるけどね。

「どういう事だ? 一体過去に何があった。」

「10年前だ」

回想
シーン
中
・
・
・

で月の遺跡に着きました。

グレイはリオンと決着を着けると言って先に走って行った。

でうちらが着いた時

デリオラの鳴き声がしたと・・・

ルーシイとハッピー、コントしてるし・・・

ちッ!!!!!!!!!!

今回は活躍なしかよ!!!

・・・でも村人を救いたいんだったらデリオラと戦わなくてもいいのに・・・

やっぱあいつらまだS級には早いな・・・

「気づいたか。」

「エルザ!」

「えッ!? 何があ?????」

「なんでもない! それより上に行くよ! 急げばまだ儀式を邪魔できるかもしれないッ!」

「ソフィア、あの方法で頼む。」

「了解!!!!」

「え？何今の音？？？」

「しっかり捕まりなさいよ！！！！！！！」

ギュン！！！！！！

「うわあああああああ……！！！！！！！！！！」

「きやああああああああああ」

いやはやスゴイ悲鳴・
・
・
・

まあ初めてはしょうがないか・・

うちだって叫んだし・
・
・

よし！とーちやく！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

ハッピーとルーシは目が回ったみたいでぐったりしてる。

でなんか犬みたいなヤツを倒した。

「もーおせんだよ！儀式は終わったんだよ！……！」

「普通にしゃべろよ！この犬！！！」

「犬じゃねーよ!!!」

確かデリオラはこの下にいるはず・・

「エルザ！ここぶっ壊して下行くよ！じゃあデリオラもいるはず！
」

「了解した！」

「じゃあ、あたしにまかせて！開け！処女宮の扉！バルゴ！」

「お呼びでしょうか、姫。」

「この下にデリオラがいるの！悪いけどその場所まで穴掘って！！」

「了解いたしました。」

「ありがとう！ルーシィ！」

「えらいぞ！」

「イタッ！！」

で降りたらマジでデリオラの場所に着いた。

「エルザ？ソフィアにルーシィまで・・・」

「ありゃナツ、グレイ」

「デリオラは？」

「ああ・・・すでに死んでいた・・・」

「うそん!!!」

遺跡の外

で

「いあ——！！！！！！！！！！」
終わった終わった！！

「あいさ——！！！！！！！！！」

「本当……一時はどうなるかと思ったよ。すごいよねウルさんって。」

「これで俺達もS級クエスト達成だ――！――！！！！！！！！！」

」

「やったー！ー！ー！ー！ー！！！！！！！！！！」

「もしかしてあたしたち2階へ行けるのかな? ? ? ? ?」

「はは・・・」

「行けるわけねーだろ。」

「そーだったお仕置きが待ってたんだ!!!」

「その前にやることあんでしょ！悪魔にされた村人を救う事が依頼の本当の目的でしょ？」

「「「えッ!？」」「」」

「S級クエストはまだ終わってない。」

「だ・・・だってデリオラは死んじゃったし・・・村の呪いだってこれで・・・」

「いや・・・あの呪いとかいう現象はデリオラの影響ではない。」

「月の雫の膨大な魔力が人々に影響した。デリオラが死んだからと言って呪いが解ける分がないでしょ。」

「そんなあーー」

ムーンドリップの影響（前書き）

自分で見て誰が何をしゃべってるか分かんないので・・・

名前かつこの前つけまーす（●＾Ｏ＾●）

ムーンドリップの影響

というわけで。

ナツ「んじやとつとと治してやるかーーーーー！ーーーーッ！！！」
ハッピー「あいさーーーーー！！！！」

ハイタッチしてる場合かよ！！

グレイ「どうやってだよ！あッ・・・・・・・・」

リオン「俺は知らんぞ。」

ナツ「なんだとお！？？」
ハッピー「とお！？？」

ルーシィ「だってあんたたちが知らなかったら他にどうやって呪いを……」

リオン「3年前この島に来たとき村が存在するのは知っていた。しかし俺達は村の人々に干渉しなかった。奴等から会いに来る事も一度もなかったしな。」

エルザ「3年間一度もか？」

ルーシィ「そういえば遺跡から毎晩のように月の雫の光がおりていたはずよね??」

ソフィア「それなのにここを調査しない＆会わないのはおかしいな。」

リオン「月の雫の人体への影響についても多少疑問が残る。」

ナツ「なんだよ……今さら俺たちのせいじゃないとでも言うつもりかよ。」

リオン「3年間俺たちも同じ光をあびてたんだぞ。気をつけな奴等は何かをかくしてる。」

ま……ここからはギルドの仕事だろ。」

ソフィア「村に行こう。」
ルーシィ「う……うん。」

ナツ「でもあいつらは村をぶこわし・・・」

エルザ「ヤツにもヤツなりの正義があった。過去を難じる必要はもうない行くぞ。」

村の資材置き場

ルーシィ「あれ??誰もいない・・・」

ナツ「ここにみんないたのか?」

ルーシィ「村がなくなっちゃたからね・・・でもどーしたんだろ・・・」

ハッピー「おーーい」

ソフィア「本当に誰もいない・・・はい、グレイ終わったよ。」

グレイ「ありがとな。」

何したって????

治癒かけてやったんだよ!!!!!!

村人A「みなさん!戻りましたか!?!?た・・・大変なんです!!!
!と・・・とにかく村まで急いでください!!!!!!」

ムーンドリップの影響（後書き）

はい！

さんません m () m

ちょーー短くて (T | T)

じつは今日ちょっと用事があって・・・

また時間があれば今日また更新します！！！！！！

ごめんなさい (＜|＞)

道連れかよー！ー！ー！ー！ー！！！！
(前書き)

はい！

こんつわ (● ^ O ^ ●)

本編へどーぞ!!!

道連れかよーーーーー!!!

で行くと村が元通りになってたと・・・

ソフィア「うわーーーーすごーい（棒読み）」
グレイ「お前絶対思ってたねーだろ！」
ソフィア「うん。」

ナツ「どーなってんだ!?これ・・・」
ルーシィ「せっかく治ったのにあんた触らないほうがいいと思う・・・」

ナツ「どーいう意味だ!!!」

ガン!!!

柱おれた。

ルーシー「そーいう意味よ!!!!」

ソフィア「エルザ。」

エルザ「なんだ??」

ソフィア「例のあれするの????」

エルザ「ああ、するつもりだ。」

ソフィア「そっか・・・楽しみだなあ！」

ルーシィ「だからなにが!!!!?????」

ソフィア「そのうち分かるよ。」

村長「村を治してくれたのはあなた方ですか?それについてはお礼します・・・しかし・・・?」
「いつになったら月を壊してくれるんですかな!??」

エルザ「月を破壊するのはたやすい。」

ソフィア「うん。」

グレイ「おいおい・・・できねーことさーりと言ってんぜ???」
ルーシィ「本当に壊したりしないよねー????」

エルザ「だか確認したい事がある。みなを集めてほしい。」

村長「は・・・はぁ・・・」

ソフィア「ってうちも手伝うの??」

エルザ「ダメか???」

いや・・・もう半強制的にあんた手つかんでんじゃん・・・
ここまでできていやなんて言えないし・・・
(その場のノリ&空気って大切だし!!!)

チラッとグレイとルーシイ見たけどやれよオーラーだしてんし!!!

ソフィア「・・・ぜひ手伝わせていただきます。」

エルザ「そうか? すまないな・・・」

ルーシイ「いやいや・・・あんたが手伝わせたんでしょーが!!!」
グレイ「んな事言っても通じねーよ!!! ソフィアだって首降ってるし・・・」

ハッピー「あれはノリだね。」

エルザ「まず状況を整理しよう・・・君たちがそのような姿になってしまったのは3年前からとなる。」

村人A「確かにそのくらいだな・・・」

ソフィア「遺跡では毎晩のように月の雫の儀式が行われていた。ここからでも月の雫の光は見えていたはずってえ??」

なんか揺れてない・・・???

エルザ&ソフィア「きゃあ!!!」

ハッピー「お・・・落とし穴まで復活していたのか・・・」

ナツ「きゃ．．きゃあつて言った．．ぞ．．」

グレイ「か．．かわいいな．．．．」

ルーシィ「あたしのせいじゃない！あたしのせいじゃない！！！！」

エルザがまだ手を握っていたからうちも一緒に落ちた。

ソフィア「いッ．．た．．」

エルザ「つまりこの島で一番怪しい場所ではないか。」

村人A「うあ．．．．何事もなかったのようだぞ．．．」

村人B「たくましい．．．．」

エルザ「なぜ調査しなかったのだ。」

ざわざわ．．．．

ソフィア「何かあるのね？？？」

村長「そ．．それは村の言い伝えであの遺跡には近づいてはならんと．．．．」

ルーシィ「で．．でもそんなこと言ってる場合じゃないよね．．死人も出てるし．．」

どよどよ

村長「そ・それがわしらにもよく分かりますです・正直あの遺跡は何度も調査しようと思いましたが

みなは慣れない武器を持ち、わしはばっちりもみあげを整え何度も遺跡に向かいました。

しかし・・・近づけないのです・遺跡に向かって歩いていても気が付けば村の門・・・

我々は遺跡に近づけないのです。」

ルーシィ「ど・・・どういう事???」

ナツ「俺たちは普通に中まで入れたぞ。」

村人A「こんな話しんじてもらえないでしょうから黙ってました・・・」

村人B「本当なんだ!!! 遺跡には何度も行こうとした。」

村人C「だがたどり着いた村人は1人もいねーんだ!!!!」

エルザ「やはり・・・か。」

ソフィア「なぞ解明ピカリッ!」

ルーシィ「え???」

ザルテイ「さすがは妖精女王、妖精姫・・・もうこのからくりに気づくとは・・・」

エルザ「ナツ・・・ついてこい・・・」

やっと手はなしてもらえた・・・

ルーシィ「ソフィアお疲れ。」

ソフィア「うん・・・」

エルザ「これから月を破壊する。」

ナツ「おお!!!!!!」

ソフィア「イエーーーーーイ!!!!!!!!!!」

グレイ&ルーシィ&ハッピー「「ええええええー!!!!!!?」
「?」

道連れかよーーーーー!!! (後書き)

次回やっとガルナ島終わる……!かも(＜|＞)

月を破壊したら宴?..?..じゃーーーー!!..!!..!! (前書き)

はーい!

今日は月を壊したら宴っぽいにするよーーーー (● ^ O ^ ●)

月を破壊したら宴???じゃーーーー!?!?!!

エルザ「今から月を破壊する。」

ナツ「おお!!!」

ソフィア「イエーーーーーイ!?!?!」

グレイ&ルーシイ&ハッピー「「ええええええー!?!?!」」

ルーシイ「ええええー!?!?! ちょっと!?!! 上行っちゃた!?!!

グレイ「ありゃマジで壊すぞ。」

ハッピー「ソフィア止めに行かなきゃ!?!!」

ソフィア「まあ黙ってみてな!」

ルーシイ「ちよつとちよつと!?!?!! 本当に壊れたりしたらどー
ーすんの!?!?!?」

ははッ!?!!

ソフィア「月の雫によって発生した排気ガスみたいな物が結晶化して空に膜を張っていた。
だから月が紫に見えていたの。」

ルーシィ「わああ・・・」

エルザ「邪気はの膜は破れこの島は本来の輝きを取り戻す。」

村人A「あ・・・あれ?????」

グレイ「けど・・・元に戻んねーのか？」
ハッピー「そんな・・・」

エルザ「いや・・・これで元通りなんだ。邪気の膜は彼らの姿ではなく、彼らの記憶を冒していたのだ。」

ナツ「記憶？」

エルザ「夜になると悪魔になってしまう・・・という間違った記憶だ。」

ナツ「・・・？」

ルーシィ「ま・・・まさか・・・」

エルザ「そういうことだ。彼らは元々悪魔だったのだ。」

でそれからボボが来て宴になった。

村人C「ソフィアさん、エルザさんよかったですらどうぞ。」

酒。

ソフィア「じゃあ少しだけ・・・」
エルザ「貰おう。」

ぐぐッ！

S
I
D
E
ル
ー
シ
イ

2人ともお酒を飲んだ。
まあ、もう飲めるしね。

ソフィア「うえー！ー！ー」
エルザ「飲んだぜー！ー！ー！！！」

えッ！？？？

ルーシィ「ちょ・・・ちょっと！！！！2人ともどーしたの？？？」

いつもの2人じゃない！！！！

ソフィア「おらー！ー誰かなんかかくし芸とかしよーっぜー！！！！」
エルザ「そーゆーお前がしたらどーだ？？？唄うめえし、バイオリンひけっし！！」

ルーシィ「酔ったーーーー!!!!」

グレイ「・・・絶対酔ってんな・・・」

ハッピー「あい。」

ナツ「てかエルザよ・・・ソフィアも唄うめえならやれよ!!!!」
ルーシィ「それはあたしも気になる!!!!」

聞きたい!!!!

エルザ「ほら!寮でやってるみたいに!!!!」

ソフィア「しょーがないな・・・じゃやるね!!!!」

そういつて換装???みたいなかんじのヤツでバイオリンを出した!
!!

ルーシィ「す・・・すごい!!!!」

ソフィア「青い翼ー広げてー・・・」

キレイな歌声にバイオリン・・・
うっとりしちゃう・・・

みんなもあんなに騒がしかったのに静かになった。

唄い終わったあと違う曲でアンコールでた。

そうだ！！！

ルーシィ「ソフィア！！！！」

ソフィア「ん？？？何い？？？」

ルーシィ「リラとうたってくれない？」

ソフィア「いいよー！！！！」

リラの琴とソフィアのバイオリンのまざった音で2人の声を聴きた
い・・・！！！！

ルーシィ「じゃ行くよ！！開け！琴座の扉！リラ！！」

リラ「なあに？？？？ルーシィ！！！！」

ルーシィ「あのね、あのバイオリンを持った女の子と唄をうたって
ほしいの！！！！」

リラ「まかせてー！！！！！！」

しばらく、打ち合わせして引いてくれた。

エルザ「キレイ……」

ハッピーとナツは寝てる。

あたしもうとうとしてきた。

またギルドでゆっくり聞きたいなあ。

次の日

みんなあのまま寝てたみたい・・・
リラも帰ってるし・・・

SIDEソフィア

うーーん・・・

頭が痛い・・・

横にはエルザがいた。

みんな宴をしてそのまま寝たのか・・・

確か酒飲んで酔っ払ってノリでバイオリンひいて歌ったり、リラと歌ったのは覚えてる。
それからみんな寝ててうちも寝よーーってなったんだ。

ルーシィ「ソフィアおはよー!!」

ソフィア「おはよー!!」

ルーシィ「まだ寝てたのエルザとソフィアだけだよ!!!!」

ソフィア「そーなんだ・・・うーん眠たい。」

ルーシィ「ねえ!グレイの顔の傷跡ソフィアの治癒でどーにかなら

ないの??？」

ソフィア「うーん・・・傷跡は無理だなあー」。

それで報酬は鍵だけになり（エルザが言った）結局とくしたのはルーシーだけだった。

んで強奪した海賊船に乗り帰った。

うちは寝てたけどお!!!

でバツはアレということになった。

ナツ「アレはいーやーだ!!!!!!」
グレイ「・・・・ああ・・・・」

もぬけのからですねぇ。

月を破壊したら宴????じゃーーーー!!!!!! (後書き)

チェンジリングは書くこうと思ってまーす。
今のところは!!!!!!

チェンジリング（前書き）

はい！！！！！！

アレンジのチェンジリングやっちゃうよー！ー！！！！

チェンジリング

バンツ!!!!!!!!!!

エルザ「今帰った！マスターはおられるか？？」

ミラ「おかえり！！マスターは今報告書を出しに行ってるわ。」

ソフィア「今のところアレはないな。よかったね。」

「「ふうーーーーー」」

エルザ「うるさいぞ！！！！マスターがお戻りになれた時判断をくだしてもらう！！！」

ルーシィ「ひーーーーー……」

ナツがリクエストボードでクエストを見てた。

ま．．．まさかあ．．．

エルザ「ナツ！！！そんなもの見てる暇があれば反省してろ！！！」

ぐい！！！

！！！！！！

手がちりつながれてる．．．

やばいやばい！！！！巻き込まれる！！！！

ナツ「？なんだこの呪文？？？うんたらかんたらなんたら」

はい、てきとーです。

ぴかッ！！！！

あー！ー！ー！！！！！！！！

巻き込まれたアアアア！！！！！！！

・
・
・
・
・

目を開いたらうちは背中まであった髪がなくなってることに気づく。

うち「あれ？？？うち髪短くなってない？？」

あれ？？この声聞いたような・・・

！！！！！！！！

うち「きゃあああああああ!?!?!」

声を上げた。

なぜならうちが目の前にいたから。

? 「ちよつとお!?!?! なんてあたしがいるのおお??.?」

えッ!?

ナツ? 「あつーい!?!」

グレイ? 「さむーい」

エルフマン 「はあ!?! 氷と火の魔道士が何言ってんだ??.?」

!?!?!?!!

ハッピー? 「みなもの者!?! 騒がしいぞ!?!」

エルザ? 「ナツー見て!?! おっぱいでかい!?!」

はああああ??.??.?

うち 「あー!?!?!?!?!」

うち2「どーしたの??? あたし!!!」

うち「うちとルーシイ、グレイとナツ、エルザとハツピーが入れ替わったのよ!!!!!!」

魔法もね！！！！！！」

[illegible]

ハッピー……いやエルザが泣き始めた。

エルザ 「うう・
・・・」

ソフィア「どうしたの?? エルザ?」

エルザ「私は入れ替わるのならソフィアがよかった……」

-
-
-
-
-

ハッピー「ひどいよーエルザ!!!」

ルーシィ「好かれてるわね……ソフィア……」

ソフィア「とにかく!!!!元に戻る方法を考えよー!!!!」
ルーシィ「それもそうね。」

ソフィア「ナツ、さっきの紙かして!!!!」

ナツ「・・・おお」

ソフィア「チェストーオ!!!!」

グレイ「うぶふッ!!!!」

飛びゲリー!!!!

ナツ「ルーシィ・・・いやソフィア!!!!人の体に何してんだ!!!!」

ソフィア「服着ろー!!!!この変態たれ目ヤロー!!!!」

なんかしばらくへこんでた。
めんどいから無視。

ハッピー「そーだ!!!!」

ナツ「どーした!?ハッピー??」

ハッピー「換装!!!!」

エルザ「や・・・やめろー」

そしたらなんかスクール水着に魚的なもんあった。

ハッピー「あれー？おかしいなー？？？かつこいい鎧に換装しようって思ったのに・・・」

そんじゃ、なんかグレイが口からちゅうと半端に火出て、ナツが氷口から出た。

ルーシィ「キモーイ！！！！」

ゴン！！！！

殴った。

マスター「古代文字の一種チェンジリングが発動したのじゃ。」
エルザ「マスター！！！！」

マスター「確か発動から15分のうちにとかなきゃ、一生そのままじゃぞ！！！！」

「「「「ええええー？？？」」」」」

ナツ「おい！あれから何分たった？？？？」

ミラ「約5分・・・あと10分ってところね。」

でケキヨク、レビィにやってもらうことに・・・

しばらくしてルーシィが気づいたように言う。

ルーシィ「ちょっと待って！！これじゃあたしたち仕事に行けない！！！」

ナツ「どーいうことだ？？」

ソフィア「中途半端に魔法が出るから、仕事にならないってことよ。まあうちは

武器なんかあったら大丈夫だけど。」

がーーーん・・・

ルーシィ「レビィちゃんまだ!？」

マカオ「あと1分!そろそろ腹くくった方がいいかもな。」

次の瞬間レビィが何か言い出した。

ピ
か
ッ
!
!
!
!
!

次の瞬間

目が覚めると

元に戻ってたのはうちとルーシーだけだった。

でまたケンカが起こったりした。

うーーざい・・・

そーーだ!!!

ソフィア「てめーら静かにしねーと1人ずつ殴んゾ!!!!!!」

壁一個壊しました☆

脅迫☆

さすがのグレイとナツも黙ったな。

ソフィア「今から材料買ってきて元に戻る薬作ってやる！！
30分あったらできるから待てっろ！！！！」

「「「「「はい・・・」」」」」

ソフィア「帰ってきた時うるさかったらしばらくからな。」

帰ってきました。

「おお！！！！なんて静か！じゃ作るから邪魔すんなよ！！台所借りんな！」

えっと・・・まずリンジダケとアイコーミヌをお湯で沸騰させて混ぜて・・・

次に昆布の絞り汁いれて終わり！！！！

でみんなに飲ませた。

「「「おお！元に戻った！！！」」」

ソフィア「ちなみに入れ替わるチェンジリングの魔法うち覚えたから？」

仕置きが足りない時そーせるよ！！！」

あのくらいの魔法陣ならうちもできる！！！！

みんな黙った。

だーかーら

こへいう空気キラーイ！！！！

でなんとなくバイオリン引いてこの空気なしにしましたとさ。

チェンジリング（後書き）

はい！！意味わかんねー（●＾○＾●）

追加

書きかえると時間がかかるのでここで言います。
ソフィアは5年前このギルドに入った。

だからリサーナが死んだのも
知ってる（●＾○＾●）

思ってください。

今後のためこうの方がいいかなと思ったので＾m＾

すみませんm（　　）m

ファントム行っちゃうよーーー^ハ**m**^ハ(前書き)

うーん・・・

たぶんすぐ終わるなあ (＜|＞)

ファントム行っちゃうよー！ー！m^

しばらく違う仕事に行ってたらなぜか・・・

ギルドつぶされてたあ☆

あはははははは・・・

もうそれはそれはエルザやナツは怒って怒って・・・

おーこわ！

エルザ「ソフィアもどーにか思わないのか！！！」

ナツ「そーだ！！お前がいたらこっちが勝てる！！！」

ルーシィ「確かにソフィアが魔法使うのあまり見たことない！！！」

いやー。だって魔法使ったら相手死んじゃいますやん（＊＾
＾＊）

ソフィア「でも、一回ジョゼと戦ってみたいかもお・・・魔法思いつきり使っても死なないかなあ」

ミラ「ソフィア！！乗らないの！！！！」

ソフィア「まあでもギルドなら治したし（葉で）鉄のおかげで武器増えたし！」

ナツ「でも俺は！！！！！！」

ミラ「ナツ、悔しいにはマスターも同じなのよ。それに評議会でギルド同市で

争うのは禁止されてるのよ。」

ナツ「先に手を出したのは向こうだぞ！」

ミラ「そーいう問題じゃないのよ。」

ソフィア「けが人がいなかったのがせめてもの救いだし。」

エルザ「マスターがほっとけというんだ。そうしよう。」

ルーシィが帰った後ミラが言った。

ミラ「そうだ！みんなしばらくチームのメンバーでいてね。
ハッピー「なんで？」

ミラ「もしかしたら1人の時に襲ってくるかもしれないからね。」
ソフィア「じゃあルーシィの家行くか！！！」

エルザ「分かった。」

グレイ「俺も」

ナツ「俺も」

でみんなで行くことになりました。

勝手に侵入しちゃった☆

でもお世話になるからご飯つくってこー!!

でスープやパスタ作ってたら

ナツ「おお!!!! 飯だ!!!!」

エルザ「あぁー!!!! ケーキも?」

ソフィア「はいはい、これはエルザ用だから気にしないで。できたから向こうに運んで。」

「「「はい!!!!」」」

ルーシィ「ってあたしの部屋ー!!!!!!!!」

「「「おかえりー」」」

ルーシイ「あれ！？ご飯？？」

ソフィア「うん。うちが作ったの。さあ食べよ！！！」

ルーシイ「ありがとー？？」

「「「いただきます！！！」」」」

ルーシイ「！！！！おいしー！！！」

ナツ「うまー！！！」

グレイ「おかわり！！！」

エルザ「ケーキのおかわり！！！」

ハッピー「魚のおかわり！！！」

ソフィア「はいはい。」

でご飯を食べながら説明した。

ルーシイ「片付けまでごめんね。」

ソフィア「いいの！ナツ、グレイ！臭いから風呂入れ！！！」

ナツ「めんどい。」

グレイ「ねみーよ。」

エルザ「しょうがないな。昔みたいに一緒に入ってやってもいいが・
・なあソフィア」

ソフィア「しょーがないな・・・片付け終わったからほら！！！！行
くよ」

グレイ&ナツ「「すんません！2人仲良く入ってきます」」

といって入っていった。

エルザ「ソフィア、ナツたちが出たら私達もはいるぞ。」
ソフィア「はいよー！！」

うち達が出たらグレイはルーシイの小説見てた。

ルーシィ「勝手に見るなー!!!!」

バコ!!!!

グレイ「ぐぽお!!」

うーーん・・・

おそろしい。

ルーシィ「そーいやソフィアの持つてる聖十大魔道って何???」
ソフィア「大陸の中で最も優れた10人の魔道士事。」

エルザ「マスターもだ。それにジョゼもな・・・」

ルーシィ「でもあたしはソフィアの方が強いと思うな!!!」

ハッピー「おいらも!!!」

ソフィア「この話は終わり!!! はい! 寝るぞ!!!」

エルザ「UNOがやりたいな・・・」

ナツ「よっしゃー!!!!!! しよーぜ!!!」

ファントム行っちゃうよー！ー！**m**^ (後書き)

はい、次はファントムを殴りに行きます！！！

ファントム殴りに行くぞー！！！！！

次の朝☆

近所の公園にレビィとジェット、ドロイがつらされていた。

ちなみにジェットの本名はサル助って知ってた？？？

ソフィア「みんな、全員下してあげて。」

「「「ああ。」」」

ルーシィは泣いてる。

うちはとりあえず治癒をかけた。

ソフィア「ふーーーーん……応急処置できたから、病院に運ぼう!」

マスターが来た。

おお……

これはまさかの????

マスター「ボロ酒場なら我慢できたんじゃないがのう……子どもの血を見て黙ってる親はいねえんだよ。戦争じゃあ。」

うーーーーん……

さてこのままうちもついていくか、ルーシと一緒にいるか……

悩む……

とにかく、原作通り進もう!!!

ルーシー「あたし、レビィちゃんたちを病院に連れてくね。」
ソフィア「ごめん、お願いね。」

そしてファントムのギルドに着いた。

ナツが扉壊して始まりじゃーい！！！！

やばいやばい！！！！

テンションあがってきたー！！！！！！

魔法はエレメントとジョゼだけ使おう！！！！

さっき作った武器でやろう！！！！

換装も覚えたし！！！！

鎧は無理。

ソフィア「おりゃー！！どけー！！このバカどもおー！！！！」

ちなみに槍で戦ってまふ。

ありゃ・・・・・・

一発で半分全滅・・・

ソフィア「手ごたえねーな・・・・くそども。」

ナツ「ソフィア！！！！お前はもう手えだすなあ！！！！」

で黒鉄のガジル発見。

一応挨拶がわりに、魔法弾くらわせた。

しーーーーーん・・・・・・

倒した。

つーか気絶。

さて、ナツ達がザコ相手にしてる間エレメントさがーそ？

おッ！！！！

なんか目に包帯巻いてるヤツみーけ！！！！

マスターが落ちてきた後だからムカついて

ソフィア「光魔法！！二十魔法陣　フェアリーメイジ！！！」

あッ！！！！

どーーーーん・・・

戦闘不能。

しかも血の量半端ねー・・・

マスターの魔力も戻したからあとはポーリュシカさんところへ。

ガジルと今倒したヤツ、ヒモでぐるぐると・・・

ソフィア「ちょっとした挨拶がわりだ。次なんかしたらてめーらのギルド

ぶっ壊してやるかな。」

エルザ「とにかく引け……！！！」

でルーシイ連れ戻して終わり。

ギルド

うちはみんなに聞こえないよう小さくつぶやいた。

ソフィア「いったあー！……黒鉄のヤツ腕おりやがって……」
ルーシイ「ごめんね。あたしのせいで……はい手かして。包帯巻くから。」

「「「「「！……！……」」」」」

やばー！
みんなにばれたあ
！！

ソフィア「けがのことは気にスンナ。すぐ直る。それにルーシイのせいなんて思ってないよ。」
ルーシイ「でも……」

ソフィア「次きたらうちがジョゼ殴りに行く。」

ルーシイ「でもそのけがで……」
ミラ「でも……今ソフィアに頼るしかないわ……ごめんねソフ

「イア・・・」

ソフィア「大丈夫！！こんなけが10分あったら治る！！！」

「ファントムがせめてきたぞー！！！」

マジかよー！！！！

ファントム殴りに行くぞー！ー！ー！ー！
(後書き)

よしー！ー！

この調子で殴りこみ2行くぞー！ー！ー！

ファントム責めて来た……ッ(・o・)(前書き)

まあ、いよいよファントム来ちゃいました^m^

殴って終わりじゃ……!!

ファントム責めて来た……ッ（・o・）

いやー……

マジできたかあ……

こうして見るとあれだな。
以外にでかいな。

あッ……！

ジュピター打ってくるんだった……！

エルザに戦闘不能になれたらちよつと困るなあ……

だから光魔法の立体ブロックでカバーして跳ね返そう……！

死んでもポーリュシユカさんに話はつけてあるからOKじゃー……
い……！

エルザ「伏せろ……！……！」

うちはエルザの前に立つ。

ジョゼ「ジュピタ発射！！！」

・・・

なんだ。

あれくらいなら素手で大丈夫だな。

エルザ「ソフィア！！！！避けるー！！！！」

ナツ「ソフィアー！！！！」

グレイ「ソフィアに任せるんだ！！」

ルーシィ「でも・・・素手なんて無茶すぎる・・・」

ジョゼ「消えろ！！！！」

うちは素手で跳ね返す。

空の彼方へ。

ソフィア「こんなしょぼいのどーってことねー。」

ついでにさっきおられた腕治ったし。

しかもうち左利きだし！！！！

うちは包帯をはずす。

ソフィア「ちょうどいい時間稼ぎになった。腕治った。」

ジョゼ「ふざけんな!!!! なにがフェアリープリンセスだあ!!!!
15分後に最大

ジュピターをうってやる!!!!」

ああー最大かあ・・・

ソフィア「ナツ!!! エルザ! グレイ!!! 15分の間にあいつら殴り
込みに行くぞ!!!!

他は来たいヤツ来い!!!! あとは全員ギルドを守れ!!!! うちはジ
ョゼを倒してくる!!!!」

「「「分かった!!!!」」」

カナ「ソフィア!!!! ギルドのことはまかせな!!!!」
ソフィア「ヨロシクね!!!!」

ナツ「殴るって言ったて何すんだよ!？」

ソフィア「とりあえずここで別れてまずはジュピターを発射の場所があるはずだから、

それを壊す!!! 目指すはエレメント全滅とジョゼを倒す事!!!」
エルザ「見つけ次第倒せ! いいな?？」

ナツ「まかせろ!!!」

ハッピー「あい。」

エルフマン「おーとこ!!!」

グレイ「まかしとけ!!!」

で、また包帯男出た。

アリア「これはこれはフェアリープリンスス……いつかのお返しをせねばなあ……」

包帯をとった。

ソフィア「テメーのようなザコはどーでもいいんじやあ……!!」

オノで吹っ飛ばした。

ソフィア「ホームランじやああ!!……!!」

ちょーーー大声で叫んだ!!
スツキリ……!!!!

屋根壊れた。

多分カナのいるトコに落ちた。

アリア「かッ・・・悲し・・・げふう!!!!」

ドスン!!!!!!

ちよつと見た。

ああー・・・

ホームランであれとは・・・

マジで弱い!!!

ソフィア「ちよいとやりすぎたかな・・・」

ってもまだ魔法使っていないよ???

ああーっージョゼはまだマシだよなあ???

でなんか揺れ始めた。

あれ???地震???まっいつか!!

それでしばらくぐるぐるぐる探してたけど

だれもいねーっー!!!!

まさかうち迷子チャンになった????

で扉を開けるとエルザ、ジョゼ、倒れてるミラ、エルフマン、グレイ発見!

でもエルザもボロボロじゃなあ・・・

ソフィア「邪魔じゃこのクソ親父い！！！！」

飛び蹴りカウンター命中！！！！

ジョゼ「がはあ！！！」

エルザ「ソフィア！！！！助かった！手伝ってくれ！」

ソフィア「OK！！ってかなんでミラまで？？？」

エルザ「いろいろあってな・・・・行くぞ！！！」

ソフィア「まかせなあ！！！」

ジョゼ「やってくれんなあ！！！！この小娘！！！！」

黒い光線！！！！

槍で跳ね返してやった。

もち槍無傷！！

ジョゼ「！！！！！」

話になんねーなあ・・・・

ソフィア「お前に選択氏をあげる。1殺されるか、2半殺しか、3

気絶か選べ。」

ジョゼ「黙れ!!!」

ソフィア「ったく・・・人の親切を・・・じゃあ1な!!!」

ジョゼ「ふざけんな!!!」

ソフィア「光魔法!!!二十魔法陣フェアリーメイジ!!!」

少しレベルをあげました^m^

レベル10段階の中ならまだ2だな。

ちなみに武器モードは1です。

ミラ「暖かい魔力・・・」

グレイ「なッ・・・俺達じゃ相手にならなかったのに・・・」

エルザ「しかもまだ本気を全然だしていない。」

「「えッ!???」
「」
「」

ジョゼ死亡。

跡形もなく。

ソフィア「やべー!!! しゃーねーな・・・」

ポン!!!!

ジョゼを死にかけに戻しといた。

ソフィア「ありがたく思え。バカ! 行くよみんな!」
マスター「なんと! スゴイ魔力・・・」

エルザ「マスター!!!!!!」

で壊れたギルドへ戻った。

ルーシイはマスターの話を聞いて泣いていた。
うちはルーシイをなだめた。

そこへ・・・なんと評議員があああ！！！！！

カエル「ソフィア！！！！マスター！あなたはエラにきてください。
あとはこちらへ。」

ソフィア「やっちゃまったああああ！！！！！！！！！！」

やばいやばい！！！

ぎゃああああああああああああああああ！！！！

マスター「おーーーーん！！！！」

泣いてる！！！！

ソフィア「だれーか！！！！！！」

みんな笑ってる！！！！

ソフィア「笑ってる場合じゃねーだろーーーーーがあ！！！！！！」

次回、どうなることやら・・・

ファントム責めて来た……ッ（・o・）（後書き）

実はソフィアの過去編書こうと思ってるんです。

記憶喪失って話前書いたでしょ???

ストーリー書かなきゃ!!!

つかほぼルーシイのパクリになるけど……（T|T）

真面目な話です（&g t; | & l t;）（前書き）

いまソフィアがお話してる間にマスターが
帰ってルーシイが家に帰った感じの間を書こうと思ってます（<
|

意味わかんない話になりそう・・・

真面目な話です(&g t; ; | & l t; ;)

はい！！！

二度目のエラですよ！！！！

ちなみにエラとは評議会と思ってください。

もうなんなの？？？

これ！！！！

エラついたら手錠外されるお約束的なもん！！！！

だからカエルに言ってやった！！

ソフィア「あのさ・・・ここに着いて手錠外すんだったら始めから
やらなくて

いいんじゃない??？」

カエル「形と思ってください。」

思えねーよ！！！！

思える人事態おかしいわッ！！！！！！

「ソフィア・・・いや・・・ソフィア・フィオーレ様」

なんじゃ????

その名前????

様????

「あなた様はこのフィオーレ王国の王女の方がなぜギルドにおられるのです？」

えッ????

何それ????

初めて・・・

じゃない!!!

もしかして記憶喪失の記憶が一部間違ってるのかも!!

「しかもあなた様は5年前お亡くなりになられたはず・・・」

!!!!!!

5年前って確かギルドに入ってた年と同じだ!!!!

「とにかくあちらの部屋にあなた様のご家族おられます。案内してやれ!!!」

カエル「はッ!!!!」

で連れて行かれた。

入ると懐かしい感じがした。

カエル「国王様、連れてまいりました。では失礼いたします。」

顔はかつこよくてやさしい感じ……

国王「私の事は覚えているかな？それとこの隣にいる者も。」

見ると美人でこれまたやさしそうな人。

ソフィア「すいません……私何も覚えてないんです。でも懐かしい感じがします」

国王「そうか……で私は国王のセイド・フィオーレあなたの父だ。私の隣にいるのがあなたのお世話係のマリアだ。」

ベタだなあ……

マリア「すいませんが・・・覚えていることを話してもらえませんか？」

ソフィア「はい・・・正直にもうして私が覚えているのは、10年前母と買い物に行ってる時母がデリオラに殺された事、そして私が階段から落ちて死んだことです。」

国王「全部あつてます。5年前外に出たいといいあなたは階段から落ちて死にました。

当時は17歳でした。墓もあります。」

マリア「バイオリンと唄も上手でした。」

国王「これがアルバムです。見てください。」

お母さんの写真をみると思い出してきた。

懐かしい感じがしたのはそのせいだ。

どんだん前世の私が思いうかんでくる・・・

バイオリンを始めた理由、お母さんとの思いで、マリアのこと。

ソフィア「思い出しました。確か死ぬ前お母さんの3回忌で、マリアとお花を添えた。」

マリアが抱き着いてきた。
泣いた。

国王「良かった、思い出して・・・ただ無理に戻ってこいと言わないので家に帰ってこないか?？」

マリア「そうです。無理ならたまにでもいいから家に帰ってきてください。」

ソフィア「考える時間をください。まとまったら家に行きます。」

んでギルドに帰ってきたわけですが・・・

言えるわけないよねー！ー！！！

ギルドは新しくなっていたけど、1人カウンターで顔かくして考え
てた。

エルザやナツ達はもう楽園の塔編に行ったみたいだな。
っー事はだいぶ置いてかれてるな……

劇の仕事はまだ行ってないみたいだけど。

ミラ「どうしたの?? エラで長いこといたからエルザ達も心配して
たわよ? 何かあったの??」

マスター「ほれソフィア!! エルザ達は今ロキの招待で海いって
る!! あとから来いと
ナツが言っておったぞ。」

チケット渡されたけど、今そんな気分じゃない。

ソフィア「……そんな気分じゃないから行かない。」

ミラ「本当にどうしたの?? 相談なら乗るわよ??」

一応全部話しました。

ギルドのみんなはびっくりしてた。
その瞬間ジュビアとガジルがいたことに気が付いた。

ソフィア「ミラ、ジュビア、エルザ達には絶対言わないでね。」

ジュビア「は・・はい。」

ミラ「でどうするの？その件」

ソフィア「断りたいんだけど言えないんだよね・・」

ミラ「そっか・・・」

ジュビア「そうですよね・・亡くなったって思ってた人がいたら相手はうれしいし・・・」

ソフィア「期待を裏切れない感じなのよねーそれに引き受けたら絶対ギルド

やめないといけないし・・・」

ジュビア「でもエルザさんたちにもいつか話さないといけませんよ？」

ソフィア「敬語じゃなくていいよ？」

ジュビア「無理です。」

ソフィア「あらまあー」

ミラ「!?! 帰ってきたわよ? エルザ達!?!」

ソフィア「マジかよ!?! ジュビア!?! 挨拶いっといで!?!」

ジュビア「はい!?!」

ソフィア「ミラ! いまのうちに帰るわあー」

ミラ「じゃまた明日ね。」

ナツ「ソフィア!?! てめーなんでこなかった!?!」

見つかった・・・

ソフィア「今帰ってきた」

ルーシィ「それはそうとずっと何してたの?」

うわー!?!

一番痛いところ突かれた!?!

ソフィア「ひみつー」

ナツ「おい! 俺と勝負しろ!」

ソフィア「無理。」

にらむように真顔で言った。

グレイ「おい・・・キゲンわりーな・・・つか元気なくね？」
エルザ「そうだ！何かあったのか??？」

・・・

もうやだあああ

この人達いやだー！ー

泣いてどっか行こうかな!! しょう!!

よし!!

実行じゃあ!!

S I D E ルーシィ

帰ってきたらソフィアがなんか元気はなかった。

「何かあったの??」

って聞いたら困った顔してたからそれ以上さぐらなかつた。

エルザが「何かあったのか??」

と言ったら、ソフィアが泣いて「ごめん・・・今は言えない!!」
っていつてどっか行っちゃた・・・

ジュビア「ソフィアさん!!」
ミラ「ソフィア!!」

はもってた!!

ソフィアが泣いてグレイはドキッとしてた。
女の子の涙に弱いのかしら????

ナツとハッピーとあたしはびっくりして、エルザはポカーンとしてた。

よく聞くとソフィアの泣いたところは初めて見たと言っていた。

ジュビアに何かあったの？

と聞いたらミラさんと顔を合わせて2人が話してくれた。

みんなしてびっくりでエルザは焦っていた。

仲いいもんねえ……

思えばソフィアってギルドの人みんなと仲がいいかも……

真面目な話です（&g t;|&l t;）（後書き）

面白くねえ変な話ですいません（<|>）

過去編終わる・・・かも（前書き）

はい!!

意味わかんない話に付き合って頂き
ありがとうございます（<―>）

過去編終わる・・・かも

SIDEソフィア

よし！！！！

作戦成功！！

考えまとまったので家にGO——！！

つかうち、あれだな・・・

女優なれるかも！！！！

でも遠いなあ。

走っていこう！！

5分で着いた☆

国王「で話は???」

ソフィア「ごめんなさい。私はギルドにいます。そのかわり、たまには手紙書いたり、帰省します。」

国王「そういうと思っていたよ。でもこれは受け取ってほしい。」

そういつてかわいい小さいペンダントをくれた。

国王「王家の証だ。それは身につけてほしい。」
ソフィア「もちろんです。それでは失礼します。」

で

ギルドに帰ると

みんなびっくりして、エルザは泣きながら、抱き着いてきてハッピー、ルーシィも泣いていた。

ナツは怒って、グレイはほっとしていた。

いやー！ー！！

ここまで心配かけてるとは・・・

んでエルザが

ナツ、グレイ、ルーシィ、エルザ、うち、ハッピーでチームを組むことを

提案しみんなOKだして、チーム再結成となってさっそく仕事に行ってきたわけです。

仕事がい早めに終わったので旅館でゆっくりする事に!!!!!!

ソフィア「いやーエルザにそんな過去があったなんてね。」

エルザ「ふふ・・・」

ルーシィ「もう!!!!ソフィアも戻ってきてよかったよ。エルザなんてずっと泣いてたのよ?」

エルザ「心配をかけたバツだ」

バシヤッ!!!!!!

お湯かけられた!!!!

ソフィア「あッ!!!!やったなあ!!!!」

バシヤツ！！！

ルーシィ「もう！！」

バシヤツ！！！！

エルザ「勝負だああ！！！！」

んでお湯の掛け合いで勝負しました。

風呂を出てコーヒー牛乳飲んで、のぼせたうち、ルーシィ、エルザ

エルザ「まさかみんな同時に風呂を出るとは……」
ルーシィ「引き分けかぁ……」

やばい、しんどい。

ナツ「おい！！！！枕殴りすんぞ！！」
グレイ「枕投げな。」

うちは起き上がる。

ソフィア「こうなったらさっきの勝負もう一回するぞ！！！！」
エルザ「これで勝負をつけてやる！！」

ルーシィ「いやな予感するから、あたし見とくね。」

次の
日。

部屋ぶっ壊れて薬作って治したうち・・・

ストレスがああああ・・・

だれかホームラン打ちで殴りてええ!!!

グレイ&ナツ 「おい！勝ったのは俺だよなあ？？」

ソフィア 「うるせー!!! けがしたんならうちと、エルザの勝ちなんだよ!!!」

つーかまた部屋ぶっ壊して、何回うち薬作ってると思ってたんだあ？??

こっちはストレスたまってたんだよお!!! ああー誰かをホームラン打ちしてえ!!!!」

ルーシィ 「それならあたしだって文句あるわよ!!! せっかく仕事終わっても

いろんな物壊して報酬減らされて、家賃があああ!!!!」

ナツ&グレイ「……すんません。」

マジで誰か殴りたーーい!!!

そうするとラクサスとーじょう!!!

んで散々文句言ってムカついたので……

やっちまおう!!!

ソフィア「黙れ！！てめー参加しなかった癖に文句ばっか言いやがって！！！」

この根性なしがああ！！！！」

カキーーーーン！！！！

バットでホームラン打ち決まったあ！！

ズドーーン！！
落ちてきた。

ラクサス生きていました。

ボコボコだけど☆

ソフィア「うし！！スッキリしたあ！！」

この後、マスター、エルザ、ミラに怒られるうちであった。

過去編終わる・・・かも（後書き）

原作ボロボロ！！

次、演技の話いきまーーす^m^

演劇の歸りにて^m^ (前書き)

タイトルこんなんだけど

演劇ちゃんと書きますよ (*^^) v

演劇の歸りにて^m^

はい!!!

もち今から仕事っす!!!

依頼の内容は

ミラの紹介で演劇団で魔法を使って盛り上げてほしいとのこと。

まあ楽しよーでしょ。

ルーシィはなぜかノリノリだし・・・

エルザはいろいろ勘違いで、自分が演じると思っているようですが・

で話を聞くと

役者が全員逃げ出したと・・・

んでエルザがノリノリで演じると・・・
でケキョクうち達で劇団をすることに。

台本見たけどこりゃまたひどい物で・・・

ソフィア「こんなんでも売れるわけないし、逃げない方がおかしいわ
!!!!」

あッ!!!!

し……しまった。

つい本音が……

ルーシー「確かにひどいわね……」

ハッピー「ソフィアは言い過ぎだね。」

ソフィア「尻尾ちぎってやろうか?? かわいい猫ちゃん。」
ハッピー「ごめんなさい。」

役柄

ルーシー……ヤンデリカ姫

エルザ……フレデリック王子

グレイ……ジュリオス

ナツ・・・・・・・・怪物

ハッピー・・・・・・・・黒子

うち・・・・・・・・あらすじを歌ったり、バイオリンを引く

うち別にやりたくなかったのになあ・・・
ルーシイに無理やりやらされた。

リラの出演消してしまった。

んで練習だから棒読み・・・

ソフィア「んーと何々・・・・・・・・遠い遠い昔のこと、西国の王子は敵
国の姫に
恋をした。西国の王子は姫を助けに死の山へ・・・」

って最初からめっちゃくだな!!!!

おかしいって絶対!!!!

エルザ「ソフィア!!!! なぜ棒読みなのだ??? というかバイオリンはどうした!!!!」

ソフィア「いや。今からやろうと・・・てかエルザこそ練習しないでいいの???」

エルザ「・・・」

凶星かよ!!!!

まあいいや・・・やろう。

んーこの劇にあう曲は何かなあ・・・
とりあえず、思いつくやつから引くか・・・

ソフィア「遠い遠い〜昔のこと〜」

なんかちがうなあ・・・

まず、バイオリンを引くか・・・

なんかさっきから視線が痛いんだけど気のせいかな・・・

1週間後・
・
・
・

本番だす。

エルザは昔から本番に弱いんだよなあ
・
・
・

ソフィア「エルザ!! 本番に弱いのはもったいないからナシね。」
エルザ「ああ・・・がんばる!」

よし多分OK!

ルーシィ「ソフィアまさか、その格好でするつもり!?」
ソフィア「??? うん。」

ちなみに今の服装は黒いキャミにデニムのスカートで靴はヒール
髪はいつも通りストレートでおろしてる。

舞台の真横で引くからそんなに目立たないんだけど

ルーシィ「だめ!! 絶対だめ!!!! あたしを選ぶからそれ着て!!」
「」

んで強制的にドレス着せられて髪はパーマかけられた。

ソフィア「絶対やだ!! つかうちこんなキャラじゃないしッ!!!!」
ルーシィ「かわいい? 似合うじゃない!! ねえみんな!」

エルザ「うむ。似合っているぞ。」

グレイ「かわいいじゃねーか。」

ナツ「ぶぷッ！」

ハッピー「なんか変な感じ。」

いやいや引くことにい・・・

舞台は変な感じで終わった。
そしてあれから毎日3公演!!!
1週間がんばった。

んで帰る途中

るーシィ「疲れたあ・・・」
ナツ「やっと帰れる・・・」

「えーっーん・・・ママあ」

歸りに迷子の子供発見！
女の子。

なぜかほっとけないうち・・・
子供好きなのかなあ???

ソフィア「どーしたの??」

子供「ママがいない・・・」

ソフィア「そっか・・・じゃあお姉ちゃんも手伝うね。」

子供「うん。」

みんなはしょーがねーなみたいな感じだった。

ハッピー「以外に子供にやさしいんだね。」

エルザ「私は関心したぞ。」

ルーシィ「よし!! 見つけるわよー!!」

あんがい商店街歩いてたらすぐ見つかった。
んで渡した。

かわいいなあ・・・
うちって子供好きなんだな。

演劇の歸りにて[^]m[^](後書き)

次は雷神衆だな(＊[^][^])v
それかオリジナル作成します。

雷神衆の出番じゃーい!! (前書き)

いやー、でわ雷神衆です。

雷神衆の定番じゃーい!!

もうすぐ幻想曲の日が近づいてきた。
ファンタジア

毎年ナツと一緒に魔法弾とかで花火をあげている。

でも今年はみんなにバイオリンが引けるといふ事実がばれてしまったから、
エルザがバイオリンを裏で引けと言われたけど断った。

だって花火の方が楽しいし!!!

今年をよく分かんないけど、なんかギルドの中でエントリーした女子の中で一番を決める祭りがあるらしい。

優勝賞金

50万J

エルザは乗り気だったし、ルーシィは家賃のためエントリーしたい。
しい。

うちはエルザに誘われたけど、ルーシィが
「ソフィアが出たら優勝なんてできな――い！！！」

って言われたからエントリーしなかった。

本番が始まりうちは、グレイやナツとみていた。

ソフィア 「みんな金のためかなんだか知らないけど、よくやるなあ
ー」。」

ハッピー 「そーいやソフィアってエントリーしなかったの？」

ソフィア 「うん。エルザに誘われたけど、ルーシィが勝ち目ないからやめてって・・・」

ナツ 「そこまでして金ほしいのかよ・・・」
ハッピー 「なんか怖いね。」

んでエルザの番が終わったらなぜか・・・

うちの名前が呼ばれたあーーーーー!!!!

ソフィア「はい???うちエントリーしてないけど???」

エルザ「私がしといた。」

ソフィア「何い???」

で半強制的にアピールしろと・・・

うわーーーー

チヨーいやなんだけどお。

んで適当に魔法で妖精作って、うちがバイオリン引いて妖精が踊る
という感じにした。

なぜかルーシイの体から負の魂が湧き出た。

で恥ずかしかったからすぐナツ達のトコへ戻った。

んでルーシイがしようとしたらエバークグリーンがみんなを石にしたというわけ。

勝負とかなんたら言ってラクサス率いる雷神衆が消えた。

んでグレイ達はみんなを助けに雷神衆と戦いに行った。
マスターはフリードの術式によって出られない。
なぜか、ナツは行けない。

ソフィア「うわー。チョーしょうもないことしよる・・・」
マスター「ソフィア！薬で元に戻せるか？？」

ソフィア「ちょっと時間がかかるけど・・・幸いキッチンにレタス
とグキオリの皮、
それにその辺に落ちてた石があったからなんとかなるわ。
ねんのため、ポーリュシカさんの元へ訪ねたほうがいいかも。」

そこでリーダーがいたので頼んだ。

うーんとまず、レタスを沸騰させてそこに石を入れて魔法をかけて、
色が黄緑になったら刻んだグキオリの皮を全部入れて、
色がピンクになるまで煮込む。

色がピンクになるのを待っているとエルザが石から元に戻った。
ミストガンも参戦した。

くっそー！ー！ー！！！！

葉作ってる暇があったら雷神衆とラクサスもう倒してるっの！！

いいないいな――――！！！！！！

っと！！！！

ピンクになったので魔法をかけてっと……

よし！！できた！！

これにかけてっと……

みんな元に戻った!!!

と

いうわけで

いまから雷電を壊す。

ビスカが壊したけど生体リンク魔法がかかってる。

でも全部壊してやる……!!

ウォーリーだったけ???

グレイがあれ壊そうとか言ってるけど

ソフィア「気にスンナ、うちが今から全部壊す。」

「「「なッ???」」」

口ケンカしてたみんなが一気に静かになった。

ルーシィ「本気なの??? 1つ壊すだけでも命にかかわるのよ!」?
グレイ「いくらソフィアでも死ぬぞ!!!」

不死だからしなねえよ!!!

エルザ「聞いているのか??? ソフィア!!」

もうおせえわい!!!

ソフィア「光魔法!!! 多数ライトボール!!」

「
「
「
「ソフィア!!!!!!」
「
「
「

うーーん……

よーーし!!
全部壊れた!!!

ドーーん!!!

ソフィア「電撃けっこうきつそうだなあ……全部壊したし、マジで死ぬかも!!」

ビリビリビリ!!

ソフィア「きゃあああああああ!!」

うーーーーん……

痛い。

全部壊したけど意識はあるし服もそんなにビリビリじゃなかった。

あああああ

でも頭が痛いから地面に倒れた。

きやああなんて恥ずかしい声みんなに聞こえてるんだよねえ……

エルザ「ソフィア！無事だったか！！！」

なんでかエルザがすぐ来た。

エルザ「よく生きていてくれた・・・でもなんて無茶を・・・」

エルザ泣いてるし・・・

ソフィア「・・・ふん。うちだけでしょ？何もしてないの。」

やばい声かすれてるわ・・・
しかもみんな来た。

エルザ「・・・分かった。分かったからもうしゃべるな。お前が死んだら私は生きていけない。」

ええええええ！！！！

そこまでうちスゴイ存在なの？？？

ルーシィ「早くギルドへ運ぼう！薬があるはずよ！！！！グレイお願い」

グレイ「まかせろ。」

ソフィア「いいよ。グレイもけがしてるし、うち歩くから」

起き上がるけど

エルザ「グレイ!! たのむ!!」
グレイ「ああ!」

ええええ???

お姫様抱っこですかあ???

やーめて!!!

うちジュビアのこと応援してるのに!!!

ジュビアもうちだからか、半泣きですませてる。

ソフィア「ああああ!!!! やめて!!!! 本当に歩けるから!!!!
この格好けっこう恥ずかしいんだよ???」

グレイ「黙ってろ！」

しかも結構速いから地味に怖い……

ソフィア「ちょおおおおおおお!! うちこういうキャラじゃなし!!」

それにうち重いでしょ?? そうでしょ!! ハッキリ言いな!!」

グレイ「軽いわ!! つかお前飯食ってるか?」

ソフィア「何を言うか!! ちゃんと食べてるわい!! エルザに聞いたら分かるわい!!」

青い顔しながら言ったらついに……

グレイ「さてはお前……この格好地味に怖いんだろ?」

ぎゃあああああああ!!

気づかれたあ!!

誰かー！ー助けて！！！！！！！！

ちよー！！

何笑ってみてんの？？

エルザにハッピー！！！！！！

ソフィア「くっそー！！！！！！！！あとで覚えとけよお！！！！！！！！！！」

雷神衆の出番じゃーい!! (後書き)

はい。

なんか変な終わり方でごめんなさい m (m

次はソフィアがグレイをボコボコにするところ
書きたいのです!!!

ルーシイのボヤキ

どうも！

ルーシイよ！！！！

実はここだけの話

あたしがソフィアにコンテストに出ないでほしいのは・・・

ソフィアがかわいいからよお！！！！

どっからどうみても美少女だし！

性格いいし、やさしいし、唄じょうずだし・・・

雑誌みても彼氏ランキングの横に彼女ランキングってのがあるんだ
けど・・・

一位全部ソフィア！！！！

ちなみに二位はエルザ、三位はミラさん、四位はあたし・・・

しかもね、ギルドでもソフィア狙ってる子多いのよお！！

以外にグレイはソフィアのこと好きなのよお！！！！

ジュビアかわいそう・・・

しかもソフィアは鈍感だから気づいてないし！！！！

家賃が ああああ！！！！！

誰かお金ちょーーーーだーーーい！！！！

またまたやっちゃった(笑) (前書き)

うーうーん・・・

早い物でもうニルバーナ行きそう・・・

ウェンディが仲間になったらアニメの作品したり、
自分で作った物語しなきや原作に追いついてしまう!!!!

やばす(笑)

またまたやっちゃった(笑)

どーもこんにちは！

グレイのヤツスピードあげててチヨー！怖かったので着いたら

っもち殴った☆

ソフィア 「エルザもなんで見て笑ってたの!!!??? ひどい!」
エルザ 「す・・・すまない。おもしろくてつい・・・」

おもしろくなんかねーよ!!!

っーか変な話だわ・・・
自分で電撃浴びて、自分で薬作るなんてえ・・・

薬飲んで復活!!

ソフィア「おっし！！！ラクサスばかりに行くぞお！！！！」

んーと確かカルデア大聖堂にいるはず・・・

おッ！！！！

発見したあ！！！！

ラクサスなら魔法弾あてても大丈夫だろう！！！！

ってか魔法弾以外の魔法使ってみよう！！！！

ソフィア「光魔法！^{ソード}剣！！！！」

エルザのサークルソードの光版ですね。

けっこうな数でたよ！！！！

ズガーーン!!!

ナツ「ソフィア!!!!」

ソフィア「おっす!!! 大丈夫! ラクサスなら手抜いたから^m^」

ナツ「いや……ラクサス俺の攻撃でもう終わってたんだけど……」

ガジル「お前の攻撃で消し飛んだ……」

ソフィア「ああー!! それも大丈夫!! ほい!!」

ポ
ン
ッ
!
!
!

ラクススが元の姿に戻った。

「
「
・
・
・
・
・
」
」
」

はい！黙った！！

もうやめて！！

この空気！！！！

なんかレビィとフリードもいたし！！！！

んでギルドに戻って一件落着！！

ファンタジア
幻想曲の準備をします!!

急いで衣装作ったりした。

うちこういうの苦手だから手がボロボロ☆

なはははは！！！

女として終わってるわ！！

またまたやっちゃった(笑) (後書き)

短くてごめんなさい (＜―＞)

幻想曲（ファンタジア）（前書き）

うーん・・・

とりあえずウエンディ仲間にしたら
オリジナル作品します。

ご了承ください（＜|＞）

あと、学生なんで9月入ったら

土日か、連休の時しか更新できません。

そこのところヨロシクですm（|）m

幻想曲（ファンタジア）

ファンタジア
幻想曲の衣装の準備したり話合い、打ち合わせをしてたら

なーーーーんと!!!!

ボロボロのラクサスちゃんが来たYO————!!!!!!

ラクサス「じじいはどこだ？」

みんなは反乱を起こした。

ギルドの人A「ふざけるな！！！！」

ギルドの人B「よくノコノコとギルドへ来たな！！！！」

ギルドの人C「誰が教えるか！！！！」

「「「そーだそーだ！！！！」」」

ったくうるせーな・・・

ソフィア「静かしろ！！みんなは幻想曲ファンタジアの用意をしてろ！！
ラクサス、マスターなら奥の医務室にいるわ。」

ラクサス「ありがとな。」

しばらくナツとラクサスがなんか話してた。

興味がなかったので衣装作ってた。

多分うちの予想だと、ラクサスは破門だな。

ほら帰ってきた。

ソフィア「これからどうするつもり?？」

ラクサス「お前の予想は本当に当たるんだな。」

ソフィア「まあね・・・」

ラクサス「ナツ達には俺が出ていくまで言わないでくれ。」
ソフィア「分かった。」

ラクス「これからは宛てのない旅をするつもりだ。じゃあな。」

ソフィア「元気でね。」

ボタン！！！

ナツ 「なあ！！！！ラクサスと何話してたんだ？？？」

もういったか・・・

雷神衆ならラクサスについて行った。

ソフィア「あのね……ラクサスは破門になったの。」

「「「「!?!?!」」」」

みんなびっくりしてる。

ナツは止めに行こうとしてたけど、エルザが取り押さえた。

ソフィア「マスターだって悲しかったと思う。うちらはラクサスの
分まで
ファンタジア
幻想曲を成功し、盛り上げよう!!!」

みんなうなずいた。

あれ・・・

うち、けっこういい事言ってるじゃん！！！！

ルーシィ「ソフィアいい事言うじゃない！！！！」

ソフィア「ありがとう。」

そーだ！！！！

ソフィア「ジュビアと 그레이가ペアになって幻想曲ファンタジアしたら???

ジュビア「／／!!!／／」

그레이「なんでだよ???

ソフィア「だって2人の魔法相性いいからとってもステキだと思うんだ!!!!」

ジュビアの為にもなるしね?

그레이「……分かった。ソフィアに言われたらな……」

ジュビア「わ・・・分かりました!!!!」

なんかルーシイ笑ってる・・・

どうしたのかな????

んで
ファン
想
曲
ジア

うちは魔法で妖精を作ってエルザやみんなのそばで踊ることを命令した。

ティンカーベルみたい・・・

→ピーターパンのヤツね。

あと花火作った。
魔法弾を
ぶつけて!!!!

あとは想像におまかせします。

えッ???

適当じゃないか???

だって書くったて・・・

ああー！ー！！！！

そうです！！

本当はめんどいんだよ！！

ファンタジア
無事幻想曲は成功したとさ

幻想曲（ファンタジア）（後書き）

次回、ニルバーナ編・・・かも

青い天馬（ブルーペガサス）ウザい（*^|^*）（前書き）

更新遅れてすんません（<|>）

でわどうぞ！！！

青い天馬（ブルーペガサス）ウザい（*^|^*）

うちは、青い天馬ブルーペガサスの別荘に向かっている。

なんでは……

もう分かりますよね???

バラム同盟の一角、六魔オランオンセイ將軍をつぶすんだけど、
敵は強大だからうちも参加しろと……

んで他のギルド、蛇姫の鱗・・・字あってますかな???

ブルーベガサス

青い天馬

ケットシエルター

化け猫の宿

で連合・・協力しろと・・

ソフィア「あああああ!!!! だるい!!! マジでだるいわー!!!
! ぱぱっとやっつけて
帰ろう!!!! もうそうしよう!!! 魔法使って殺したら早いし!!!」

今日はだらだらできると思ってたのに・・・

エルザ「落ち着け・・・まあでもソフィアがいると心強いな。」

ルーシィ「マジで殺しちゃいそう・・・」

ハッピー「あい。」

はい！！ つきました。

別荘入った瞬間変な奴等が話かけてきた。

とりあえず、 그레이の後ろに隠れよう。

自己紹介してたから聞いた。

まあうちには関係ねーだろ。

그레이「つーかなんで俺の後ろに隠れてんだよ……」

ソフィア「あーいう系うざいから嫌いなんだよね。」

男と一緒にいたら来ないだろ。

いまからうざい奴等ブルーベガサス青い天馬だと思ってください。

ウザい奴等A「そこのかわいいお姉さん。」

ウザい奴等B「そんな奴等としないで」

ウザい奴等C「こっちにこい。」

ウザい奴等D「うーーん・・・いい、香り（パルファム）だ。」

ぞぞツ・・・

さ・・・寒気が

ソフィア「結構です。あとハッキリ言ってあんた達よりこっちが好

みだから。」

これ本当です。

あんな女たらし大嫌い！！

まだ、ナツやグレイの方断然がましだ。

がーーーーん・・・

ショックだったらしい。

つかなんでグレイ顔赤くなってるの???

ソフィア「だから、殺されなくなかったらうちを2度と誘うな。」

換装でこん↑バットみたいなやつ。

を出した。

ナツやルーシイはおびえている。
何するか分かったからね？

ラミアスケイル
んで蛇姫の鱗が来てケンカし始めてる。
ジュラさんが止めようとしたところに

ソフィア「まったく・・・うるせーんだよ！！ケンカするために来た

んじゃねーだろ!!

バカ!! 次うるさかったら、ホームラン打ちするからな!!!!」

妖精の尻尾は分かったようで静かにやめた。
フェアリーテイル

ジユラ「ソフィア殿の言うとおりだ!! 我々はこれから協力しなければならぬのだぞ!!」

ソフィア「ジユラさん、お久しぶりです。」

ジユラさんとは聖十大魔道の称号をもらう時にあった。

次は幼い女の子が入ってきてくれた。

ソフィア「大丈夫?? けがしてない??」

手を差し出す。

?? 「ありがとうございます。あの・・・えっと・・・化け猫の宿
から来ました、ウエンディ・マーベルです。よろしく願いします。
」

ソフィア「妖精の尻尾のソフィア・フィオーレよ。よろしくね。
ウエンディ。」

ウエンディは安心したのか、手を握って

ウエンディ「あの・・・私戦闘は全然ですけど、みなさんのお役に
立てるようがんばります。

だから、仲間外れにしたりしないでください」

?? 「あのね!! その女の人はそんなことしないと思うわよ??」

ハッピーの白い女バージョン!!

ウェンディ「シャルル!ついてきたの?」

シャルル「ほっとけないね・・・そのこがソフィアね・・・噂に聞くよりいい人じゃないの。」

ソフィア「噂?」

ウェンディ「あの・・・妖精姫が^{フェアリープリンセス}とっても強くてわずか、
12歳の時に聖十大魔道の称号をもらい最年少でその力のはかりし
れなく・・・」

ソフィア「ああー!!もういいです!!ストップ!ストー
ップ!!」

自分の自慢話聞いても面白くないし!!

ウザい奴等A「さすがソフィアさん!!美しくてすばらしい!!結
婚して・・・え?」

バツコーン!!!

ウザい奴等A「うわああああ」

ソフィア「次したらホームラン打ちするって言ったよな?..?..?」

ウエンディなんかもう泣きそう。

ソフィア「大丈夫!! あんなことしなかったらホームラン打ちしないから?」

エルザ「確かにソフィアは怖いがさっきの奴等は場外としてめったな事では怒らない。
気にするな。」

ルーシィ「戦闘の時も十分怖いけどね.....」

ウェンディ「はい。分かりました！」

そう言ってうちの手の握った。

エルザ・・・なんか殺気飛んでるよ???

青い天馬（ブルーペガサス）ウザい（*^|^*）（後書き）

オラシオンセイスの字・・・あつてるかな???

他なんか間違ってたらお願いしまーす!!

いじけようかなあ・・・(前書き)

学校やだなあ~~~~(<|>)

課題テストやばいわぁー(T|T)

いじけようかなあ・・・

エルザはどうやら、うちとウェンディが手を握っているのを嫉妬しているらしい。

おいおい・・・

あんたうちより年上だろ???

ソフィア「作戦は?？」

一夜「その前にトイレの、香り（パルファム）だ。」

んで帰ってきたけど、なんかあやしいなあ・・・

換装でハンマーを出して・・・

ソフィア「ちよつくらゐごめんよ〜」。

バコーーーン!!!

一夜「めーーん!!」

みんなびっくらこいてるよ〜。

ジュラさんまで。

といいながら青い奴が2人出てきた。

ソフィア「双子宮の扉・・・ジェミニね。いるんだろ???
六魔将^{オラシオンセ}のエンジェル。」

エンジェル「ああゝ見つけたぞ。」

バ
コ
ー
ー
ン
!!
!!
!!

エンジェル「きやああああ!!!!ま・・・だ話の・・・途中・・・
・がくり」

ヒモでくくりつけてうちが引っ張る。

ジュラ「六魔將軍の1人を一発で・・・」

ソフィア「お！！でも死んでないじゃん！！楽だわ～～～！あのゴツイ

顔の人多分男子トイレにいるよ？？見てきて！」

ルーシィ「スゴイ・・・たった一発で倒して、見分けたなんて・・・」

ソフィア「魔力の感じがゴツイやつと違うかったからね。」

みんな気づかなかったみたいな目だった。

ソフィア「作戦だけど……このまま奴等の拠点と目的はかせて、倒した方がいいんじゃない?？」

ジュラ「……そうしよう。」

ソフィア「よーし！おいテメー！！拠点と目的をいえ。妙なマネすんなよ？？」

エンジェルは鍵をとろうとしたけど手を踏んだ。

エンジェル「うあああ！！！」

ソフィア「おいおい、言葉分かってます？？早くしないと手なくなるよお？？？」

エンジェル「目的はニルバーナを手に入れるこ．．．と．．．がく」

ああー！ー気絶しちゃったよ・・・

ソフィア「ちえ！！使えないなあ・・・」

気のせいかな？？

エルザとジュラさんは呆れて、他は震えたり青ざめたりしてるんだけど・・・

ソフィア「どうしたの?？」

ナツ「・・・・」
グレイ「・・・・」

エルザ「とりあえず拠点を見つけよう。」

無視ですか???

いじけて帰るよ???

で探す事に……！

走るのウエンディ遅いからひばって走ったら怖いと言ってた。

あ……！

オラシオンセイス
六魔將軍みくけツ!!

向こうも気づいたみたいで、みんなも来ました☆

ポコポコ祭り開催!!! (前書き)

はは!!

お久しぶり～～～ (T | T)

テスト勉強しなきゃ・・・

ボコボコ祭り開催!!!

むふふふ！

おやまあ、強いのがわんさかいること・
・

こうなったらボコボコにしてやるう!!

ブレイン「!!!! エンジェルがあんなに!!!!」

ソフィア「ちーーーーすッ!!!!」

ナツ「探す手間が省けたな。」

グレイとナツが殴りかかり戦闘開始！！！！

ん~~~~ままず・・・

誰からやつちやおうかな〜？

と考えていたら・・・

ナツつーかエルザ以外ダウンしてる!!

早すぎだろ?..??

早くしないとエルザが毒蛇にかまれるなあ・

ってもうかまれてたあ！！！！

うち。

残り
1人

ソフィア「つてえええええ？　？？！！！！早すぎだろおい！！ナツ
 ！！！さっきの威勢はどうした！！」

ち
ツ
・
・
・
し
よ
ー
が
な
い
・
・
・
・

換装!!

もち・・・

ホームランをしたいのでハンマー!!

ミットナイトとブレインはあとでいいや
(●^O^●)

みんなかかってきたので・・・

やっ
ち
ゃ
う
よ
お
ー
ー
ー
! !
!

汚い血が出てきてウエ
ンデイには悪いもんみ
せちゃった☆

一気にミットナイトとブレイン以外が全員倒れた。

敵、味方関係なしに驚いてる。

「……！」

なんだよこれで終わるかあ???

じゃあそろそろブレイン行くかなっと思ったら

ウェンデイとハッピー持って逃げた。

ソフィア「おいおい……まっいつか……エルザ！腕見せて。」

みんなは一夜の痛みどめで効いてるけどエルザはやばいなあ……

ジュラ「まさか、あの六魔將軍オラシオンセイスの半分以上を倒すとは……お見事。」

ソフィア「いえ、それよりエルザの毒が心配ね。うちも治癒はできるけど時間がかかるし、薬が一番効くけど材料はないし……できるところまで治癒をかけるから、ウエンディとハッピーを連れ戻して。」

シャルル「ソフィアの言うとおりね。ウエンディは解毒や解熱もで

きるし・・・あのこは
ドラゴンズレイヤー
天空の滅竜魔法よ。」

でみんな連れ戻しに行くのだ!!

ポコポコ祭り開催!!!(後書き)

けっこう短いかも・・・

すみません (<|>)

ジェラールって誰（笑）

ソフィア 「はあああああ
・
・
・
・
・
・
・
」

うちも戦いに行きたかった（＜|＞）

ルーシィ「調子はどう？」

ソフィア「うーん・・・さすがにこのままじゃばい！！！！！！」

ウザい奴「君は行かなくてよかったのかい？」

ルーシィ「どう見たってあたしが一番戦闘力にならないし・・・それにソフィアも
いつ魔力切れになるか・・・」

ソフィア「うーん・・・多分あと2時間もすれば切れるなあ。」

ウザい奴「そうか・・・」

ルーシィ「ヒビキは行かなくていいの？」

ウザい奴「女性3人を置いては行けないよ。」

めんどいから話とばす。

んで結局ウエンデイが来たのでok!!

ソフィア「疲れたー！！！！ってか遅かったね。」

ナツ「ブレインとかいたし、なんかもう他の奴等復活してた。それにジェラルルもいたし・・・」

あー！
知らんけど

ソフィア「うーし！！また見つけたら次は半殺しにしてやる！！」

ナツ「ふざけんな！俺はまだ1人も戦ってない！！！！」

ソフィア 「がんばー！！ つかエルザいない♪」

ナツ 「なーに！？？？？？？？」

ジェラールって誰(笑) (後書き)

短いけど許してえ (T | T)

**B
O
K
O
B
O
K
O**

んでそのへん歩いてたらミットナイト発見

今は1人!!

どうする?!

まず、何か言おうとしたが無視して

殴る

蹴る

ビンタ

ぶつたたく

しばく

最後に
・
・
・
・

ホームライン!!!!!!!!!!!!!!

んー！

死んだかも？

ぶっ飛ばしたあと、なんか変な建物？？が出てきた。

ニルバーナだにや。

なんか上る。

グレイ、ルーシィと合流。

ハッピーとナツは先に行ったそう。

ルーシー「で、・・・魔法使った??？」

なんか変な質問だね??？ね??？

ソフィア「使っていないよ!?!」

ひ
ゆ
う
う
う
う
う
う
う
・
・
・
・

もー！ー！ー！この空気やだー！

2人ともマジかよ!?!みたいな目してるし!!

ぶち!!

ソフィア「毎回毎回なんなの???この空気感!!ちょーちょーやだ!!」

もういいよ!うち1人でブレインでもなんでも倒してやらー!!」

切れた（笑）

大人気ないな

でその後超もうダッシュで登っていた。

切れたうち。(前書き)

はは！

どーもです!!

台風で今日はお休みだったのだあ
(● ^ O ^ ●)
()

切れたうち。

めずらしく？ブチ切れたうちは、ただひたすら走っていた。

で
・
・
・

お約束のまよったー！

どこだ？？ここはあ！！

んじゃ日がくれて、エルザと合流しますた（●＾○＾●）

エルザ「ソフィア！無事だったか！」

ソフィア「あれま？？その横のヤツは？？？」

エルザ「・・・ジェラルだ・・・」

以外にイケメン（笑）

ソフィア「そう！んで全員倒したの？？」

エルザ「分かん。」

そう思ってたら頭の中に誰かが話かけてきた。

それがヒビキ？で二ウ”バーナの倒し方が、足が6本あるのを同時に壊すだって！！

切れたうち。(後書き)

超短くてごめん(＜―＞)

壊すのは得意 m (前書き)

なかなか更新できなくてすいません・・・

そのぶん短い・・・

いま、ネタを考えてて・・・

壊すのは得意 m へ

じゃあ、マスターゼロがナツ、グレイ、ルーシィ、ハッピーをやったと。

エルザ「なんだと!??」

ウエンディ「ナツさんたちが・・・」

ソフィア「ありゃまあ・・・っておいおい、ナツお前口だけかよ?」

ウエンディ「ソフィアさん?？」

ウエンディが震えてる。

ソフィア「妖精の（フェアリー）尻尾^{テイル}の魔道士は口だけかあ?？
あんた達の強さはそんなもんじゃないでしょ！

起きろや!!!!

このアホどもがああ!!!!」

ナツ「わ．．かつて．．．る!」

グレイ「6つのラクリマを．．同時に．．壊す．．」

ルーシィ「．．運のいいヤツはついでに．．ゼロも殴れる．．
でしょ？」

ハッピー「急がなきゃ．．ウエンディとシャルルのギルドを．．
守るんだ!」

ナツ「1に行く!」

グレイ「2!」

ルーシィ「3！（ゼロがいませんように・・・）」

ソフィア「4！！」

エルザ「5に行こう。」

ジェラルル「でわ俺は・・・」「あなたは6よ」

ぼそ

エルザ「ナツはまだお前の事を敵だと思っている。」

ソフィア「まだ正体を隠した方がいいわ。」

ナツ「他に誰かいんのか!?!?」

ぶち!?!!

ソフィア「切れたのね・・・」

エルザ「ヒビキの魔力も限界だったんだろう・・・」

20分後

6つのラクリマを壊す。

みんなはそれぞれ位置に着いた。

ナツは鼻がいいから、ゼロのいる1を選んだ。

エルザも言っていた

ソフィア「ナツ・・・頼んだわよ。」

まあ無理だとしても、うちがなんとか食い止めるけど・・・

実は1人で6つ壊せるけど原作通り進もう。

で・・・どうやって壊すか・・・

魔法を使えばへたすりゃ、ニルウ”アーナごと消すし・・・

素手でいいか。

20分後

ソフィア「行くぞお！！！！！！！！！！」

バリ
ー
ン
！
！

げ
ん
こ
つ
パ
ン
チ
！
！

はい！

殴っただけでばらばらに砕けちった。

魔法マジ使わない方がよかったなうん。

で次は・・・

脱出ゲームの時間だよ？

どうする？

▼
ソフィアは壁に向かって思いっきり蹴った。

▼ 壁は崩れた

そこから出る

壊すのは得意 ^ m ^ (後書き)

脱出成功

キモウイ（前書き）

更新さぼってすいやせんっした!!

キモウイ

テキトーにその辺にいたらエルザがいた

「エルザ！！大丈夫だった？」

「ソフィア！ああ、無事だ。」

「エルザさん、ソフィアさんご無事で？」

「ん？」

くるり

そこにはキモい筋肉もりもりのおっさんがいた

「いやぁー！！！！きもーいい！！！！！！！！」

「な・・・何者だぁ！？？」

2人とも武器を出して身構える

「エルザ！ソフィア！どうした！？？」

「グレイ！！なんかキモいのがあああ！！！」

「うお・・・！」

「さ・・・三人とも！わたしは一夜だ！！」

「た・・・確かにそれっぽい顔してんな・・・」

「まじでかわしいー！！ってかきもさがまして・・・」

「ぶるぶる・・・」

エルザ・・・うちの後ろに隠れないでよ・・・

キモいって思ってるのあんたさんだけじゃないよ？

なんだこんだでみんな集まったと

ウェンデイも喜んでるしまあ一見落着いてか・・・

ジェラルルのことについてはみんなびっくりしてたけど・・・

「うあああ!!」

「どうした? 一夜殿!!」

「トイレのパルファムと思ったら・・・」

「術式!？」

「ソフィア解けるか？」

「解けるけど・・・かなり高度ね・・・少し時間がかかるわ」

キモウイ（後書き）

短くてごめんあさい（＜―＞）

別れといえど小学校の卒業式の日、泣きそうになったけど先生が引くほど泣いて

なんか銀魂のタイトルみたいな感じになったな・・・
ちなみにこれ事実です！（●＾○＾●）

別れといえは小学校の卒業式の日、泣きそうになったけど先生が引くほど泣いて

もう発足していた新しい評議会にビックリしますた

「姫に敬礼……！」

ザ……！

あ……！自分姫だったってこと忘れてた（笑）

「え!?! ソフィアさんって姫なんですか!?!?」

「ん? まあね!!」

「姫、大変失礼なお迎えのことお詫び申しあげます。我々はそこに
オランオンセイズ
おられる六魔將軍のコードネーム ホットアイをお渡しください」

「そんな!!」

「いいのですジュラ、たとえ善意が生まれても過去の悪意は消せません。」

「それでは私が代わりに弟を探すことにしよう。」

「本当ですか!?? 弟の名前はウォーリ、ウォーリ・ブキャナンです」

「「「「「ウォーリ!??」」」」」

あたし以外のギルドのみんなはビックリしている

「ウォーリって確か・・・」

ルーシイがエルザの方を見ている

「かつての私の仲間だ。今は元気に大陸じゅうを旅している。」

「本当ですか?!!! ずず……ありがとう……ありがとうござ
います」

「なんか、かわいそうだね。」

「仕方ないわよ」

あれ？

おっかしいなあ……なんかこの後重大なことがあったような……

「もういいだろ！術式を解いてくれ！！もらすぞ」

「黙れこのキモ男があ！！！！もらしたらてめえ殺すぞ！！！！」

「そ・・・ソフィアそこまで怒る？ことないと思うわよ・・・」

「あはははは！！ルーシィごめんねえ！！うちあんな感じの人嫌いなのお？」

その顔面けちらしてアゴを整形してやるよ!!

「いえ私たちの本当の目的は六魔將軍オラシオンセイズごとくではありません。」

「「「「え?」」」」

ああ!!!!

「ジェラルルとかいう系!?!」

なーんちゃって!!

「その通りです、おまえだジェラルル!!抵抗する気なら抹殺の許可もおりにいる!!!」

「「「な!?!?」」」

あっちゃ!!

マジであってたかぁ・・・

「抹殺はないんじゃない!?? 肋骨折るくらいで。」

「その方が痛いと思いますよ?」

ウェンディが言ったようにみんなもそう思ったとかないか・・・

別れといえは小学校の卒業式の日、泣きそうになったけど先生が引くほど泣いて

うん。毎回短いなあ（●＾Ｏ＾●）
我ながら思うぞ。

んでここでみなさんにお知らせだす！！

質問などがある人は遠慮せずばんばんしてください！！

ここで、作者とソフィアがお答えしますんで！

ソフィア「ちょ！？？何勝手にきめてんの！！！」

作者「そういうことです！でわでわ（●＾Ｏ＾●）」

ソフィア「話聞け！！！」

別れ・・・ほたるのひかりを合唱しよう！
(前書き)

はい！タイトル無視してレッツGO！！

別れ……ほたるのひかりを合唱しよう！

はい！結構話がごたついて結果！

ジェラールは捕まえるが、軽い罰にしようとのこと！

ナツは納得がいかなかったらしいは殴って黙らせた？

ここまでOK？

エルザはエルザで
「ありがとう」

と言ってくれた

うん！よかったよかった

んで聞くが……このあともう化け猫宿ケツルタビに行く

|| もうあのイベントが待っている・・・

よし！ハンカチの用意をしよう！！

で着きました！！

（手抜き（笑））

着くとまずルーシーに強制的に風呂入らされる

さっぱりーのあとは服に着替える

どんなの？

ってこれまたルーシイが決めたんですが

ビキニっぽいやつに花柄書いてあって下はビキニっぽいやつの上に
スカートはいて左もものところが
穴？が開いていて左もが見える状態

まあ！エドラスでルーシイがはいてる水着の下みたいナ感じ！

髪は耳と同じ場所にツインテールそして地味にあみこみがはいつて
いる

鏡で見た瞬間吹きそうになった

「なにこの格好?？」

「まあまあ・・・かわいいじゃない!! ね! エルザ」

「ああ、似合っている。」

ど・・・どうも

「わたくしの方がかわいいですわ」

「そうだねうん。」

「このギルドは服作りもさかんなんですよ。」

「ふーん・・・」

「ねえ、ウエンディこのギルドはいつギルド連盟に加入しましたの？わたくし失礼ながら
この作戦が始まるまでギルドの名前・・・知りませんでしたわ。」

「そういえばあたしも！」

ルーシィは知っていることの方が少ないでしょうが！！

「うわぁ・・・うちのギルド本当に無名なんですネ。」

「どーでもいいけど、みんな集まってるわよ」

別れ・・・ほたるのひかりを合唱しよう！
(後書き)

短い！短い！けとごめん！！

たった1人の為のギルド（前書き）

はい、タイトル通りで行きますんで
m
^

たった1人の為のギルド

その後

とりあえず広場にみんな集まってた

「みなさん、今回は本当にありがとう……」

って感じで話をしていきなり顔のゴツイおっさんが

「いえいえ、」

とか誰とも戦ってない奴がキレイごと言っちゃって……

ムカついたもんだから言っちゃったよ

「ゴツイおっさん……あんた戦闘とかしてないでしょ？」

殺気の込めた笑顔で♪

「め・・・メイン・・・」

「ちょっと！ソフィア！！思っても言っちゃあダメよ！」

「ルーシィ・・・それフォローになってない。」

「おいらも思うよ」

「うるさいこの青猫！！」

でなんやかんやで宴が始まると思いきや・・・！？

シーン・・・

ウェンディ以外の化け猫^{ケットシ猫}の宿のみんなはマスターを
含めシーンと・・・

え!?

やだ・・・この空気・・・

と思ったらマスターがしゃべりだした

「みなさん……ニルビット族の事を隠していて本当に申し訳ない。」

「そんな事で空気壊すの？」

「うわー……ないわ……」

「全然気にしてねーのに。な？」

「マスター私も気にしてませんよ」

そして、ニルウ”アーナのことやニルビット族の事をいつきに話した

そして

「いまようやく役目が終わった。」

「そ．．．そんな話．．．」

ウェンディ．．．

いきなりそんな事言われても．．．困るよね．．．

すると突然ウェンディのギルドの人が消えていく

「マグナ・・・ペペル・・・なにこれ!? みんな・・・!!!!」

「アンタたち!!!!」

「どうなってるんだ!? 人が消えていく!!」

「いやよ!! みんな・・・!!!!!! 消えちゃイヤ!!!!!!」

「騙していてすまなかったな・・・ウエンディ。ギルドのメンバーは皆・・・」

わしの作りだした幻じゃ」

「なんだとお!？」

そして、マスターはすべてを語った

7年前にやってきた少年がウエンディをあずけてくれと。

そのとき、ウエンディがジェラルルはギルドに連れて行ってくれる・

そういった。

そしてマスターは嘘をつき幻の仲間を作り出した

「ウェンディの為に作られたギルド・・・」

「そんな話聞きたくない！！バスクもナオキも消えないで！」

「ウェンディ・・・もうお前に偽りの仲間はいらない。

本当の仲間がいるではないか。」

そういや・・・うちの母上・・・

今のウェンディを見ると幼い頃の自分を思い出してしまう。

前世のうち・・・母上を亡くしたとき

そのときからうちは・・・

知らないうちにうちは、ウェンディの元へ歩いていた

「ウェンディ・・・大切な人を亡くしたらその大切な人の言葉を思い出したらいいの。」

亡くしたからと言ってそこで終わっちゃったらダメ

逆に前へ進みださなきゃ・・・

うちも・・・そうだった。」

「え？」

ウェンデイはこちらを向いた

うちはめったに変な顔はしなかった。

だけどしてしまう。

あの頃を思いだしてしまうから

するとエルザがそばに来た

「愛する者との別れのつらさは仲間が埋めてくれる。

来い。妖精の（フェアリー）尻尾^{テイル}へ」

たった1人の為のギルド（後書き）

なんか真面目な話になっちゃいました・・・

ソフィアの過去もちよくちよく触れていくんで

写真（前書き）

報告です。

もうすぐあたすの学校で期末の時期なんで

しばらく更新できません。

ご了承ください。

写真

はい。今船の上です。

マグノリアに帰る途中です

まあ、予想通りそれぞれのギルドに帰る時いろいろ言われました

レンとかいう奴になんかされたけど無視してきました

「楽しみです！！^{フェアリー}妖精の尻尾^{テイル}！！」

あ・・・

話半分聞いてなかった

ナツは会い合変わらず酔ってます

「そ・・ソフィア・・葉・・ない??」

「材料がない。」

本当はあるけど水平な場所じゃないと失敗しやすいんだよね
んなこと、ナツに言っても無意味だけど!!

「ソフィアさん!! 治癒魔法の事!! もっと教えてくださいね。」

「え・・・?? ああ、うん別にいいけど・・・」

エルザ・・・にらむな

あんた何歳??

それより・・・またお母さんのお墓参り行かないと・・・

行けなくても、写真見ていろいろゆつくり報告するね。

とかいいつつ、いつも鞆に入れてるんだけど!!

だって、お母さんが守ってくれた命なもの

何かあったらすぐ報告しないとね・・・

こんなこと思ってるつついつい体が勝手に鞆の中にある
写真・・・

取り出してるんだよね。

写真見てるときのうちの顔・・・

どんなんだろう？

うるさかったみんなが一気に静かになる。

ギルドでも

そんな切ない顔してるのかな???

S
I
D
E
ル
ー
シ
イ

まただ・・・

ソフィアが写真を見て切ない顔してる・・・

いつも明るくて強くてかわいくて勝手にあたしが憧れてるソフィア。

そんなソフィアがそんな顔してるところこっちまで
悲しくなってきたやう

ギルドのみんなもそうみたい。

あれほどのうさいケンカが始まって

ソフィアが写真見て切ない顔してるとみんな静かになる

ナツやグレイでも

一番ソフィアの顔見て暗くなるのはやっぱりエルザだ

あんま、見たくないな・・

写真（後書き）

なんか変な感じに終わってすみません（＜―＞）

仲間の絆って奴を強調したくて・・・

っではまた次回！！

帰ってきたぞお!!
(前書き)

はい!

やっと期末終わった!

点数も終わった!

帰ってきたぞお!!

で久々帰ってきました。

妖精の（フェアリー）尻尾^{テイル}

会い合変わらずうるさいな。うん

外まで騒ぎ声が聞こえているゾ？

「ここが妖精の（フェアリー）尻尾^{テイル}・・・大きいですね・・・」

「私はうるさいと思うけど・・・」

「まあ、すぐになれるわよ。じゃあ開けるか。」

と思いきや

「帰ってきたぞー!!」

「あいさー！」

バンー！

ギルドのドア壊しやがった・・・

「日頃から物は大切にしろッ！っ！っていつも言ってるだろがー！！」

「ふふおー！！」

ゲシー！

必殺泣く子も黙る飛び蹴り☆

「ソフィア・・・物事を大切にしろと教えこむのはええが・・・お前も人のこと言っておれんぞ？」

「え？」

そう

さっきの飛び蹴りの反動で柱一本壊した

「ほえ!!!ご……ごめんなさい!!!」

ウソーン!!

周りをもっと見てから攻撃しないとな……

「マスターただいま戻りました。」

※説明中

「・・・というわけで、ウェンディとシャルルをギルドへ誘いました。」

「なるほどな・・・お前らよくやってくれた。これでこの辺はしばらく
平和じゃ。」

もちろんウェンディとシャルルも歓迎しよう。」

▼ ウェンデイとシャルルが仲間になった

で宴となるわけだ

正直あんま宴好きじゃなくなった。

理由 めんどい

っしー!!ここはそーとギルドを出よう

「どこへ行くつもりだ?」

ギック!!

「えーと・・・エルザ・・・」

帰ってきたぞお!!
(後書き)

短くてすいません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6460v/>

FAIRY TAILー転生したうちー

2011年12月2日16時52分発行